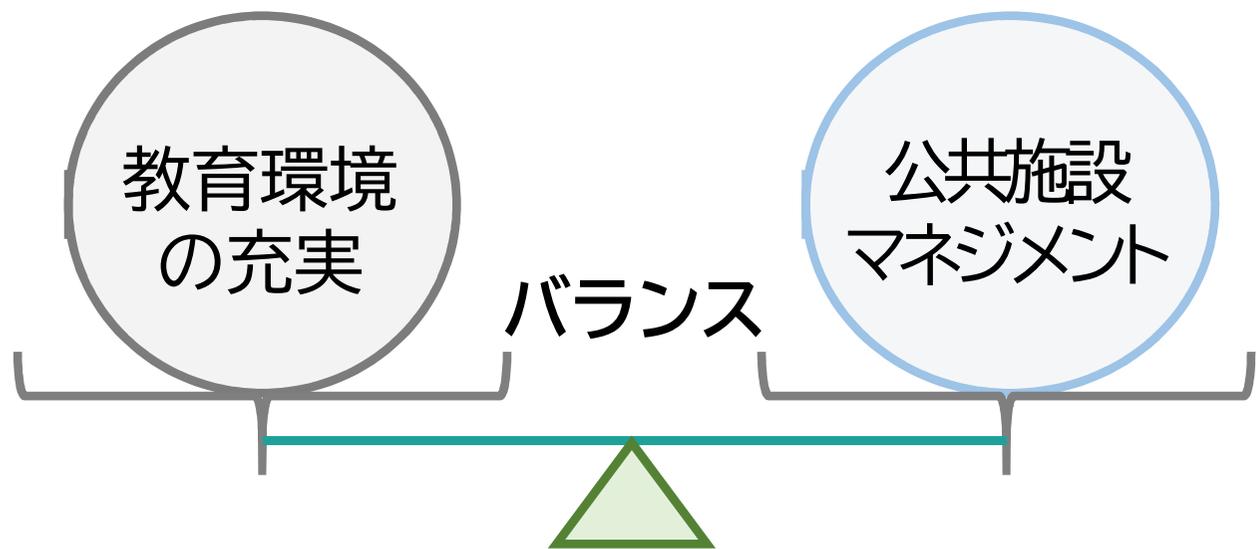


上尾市学校施設更新計画基本計画 の見直しの背景

計画の目的

持続可能な教育環境づくり
1) 適正な学校規模づくり
2) 利用しやすい教育環境整備の推進
3) 施設の健全化と複合化

計画の目標



計画期間 令和3年～令和37年(2055年)

上尾市学校施設更新計画基本計画の見直しの背景

■基本計画 令和3年5月策定

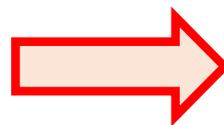
■上尾市学校施設更新計画基本計画調査特別委員会 令和3年6月設置

■基本計画地域説明会 令和3年7月

主な意見

- (1)学校規模が大きくなりすぎる
- (2)通学距離が遠くなる
- (3)地域住民の意見を聞いていない
- (4)コストありきの再編(案)である

■調査特別委員会 令和3年8月



地域説明での意見を踏まえ
計画見直しを決定

■市議会 9月定例会

経費35%削減の枠に
とられない

学校再編案は
ゼロベースで見直す

※ 全7回の調査特別委員会を経て、令和4年1月17日上尾市長宛「提言書」の提出

2. 現行の上尾市学校施設更新計画基本計画について

上尾市学校施設更新計画基本計画調査特別委員会の提言

(1) 公共施設マネジメントの目標値について

- ① 経費35%削減の枠にとらわれず再検討すること
- ② 長寿命化について改めて検討を行うこと

(2) 教育的観点について

- ① 教育的観点到主眼を置いた基本計画に見直すこと
- ② 教育委員会は、教育的観点から独立性を発揮して議論を行うこと

(3) 特別委員会の意見について

- ① 特別委員会の意見を精査し、基本計画の策定に反映しない場合にはその理由を議会に対し報告すること
- ② 特別委員会において見直すべきとの指摘があった事項については、見直しも含めた再検討を行うこと
- ③ 将来人口推計と児童生徒数については、各種計画に示した将来展望人口との整合を図ること

(4) 市民及び議会への報告について

- ① 議会の求めに応じ報告を行い、地域説明会等を開催し、市民の意見を聴取すること
- ② 市民に対して偏りなく幅広く周知を行い、市民の意見を踏まえた見直しを行うこと

上尾市学校施設更計画基本計画(骨子案)

1. 現状と課題

1. 現状と課題

学校を取り巻く課題

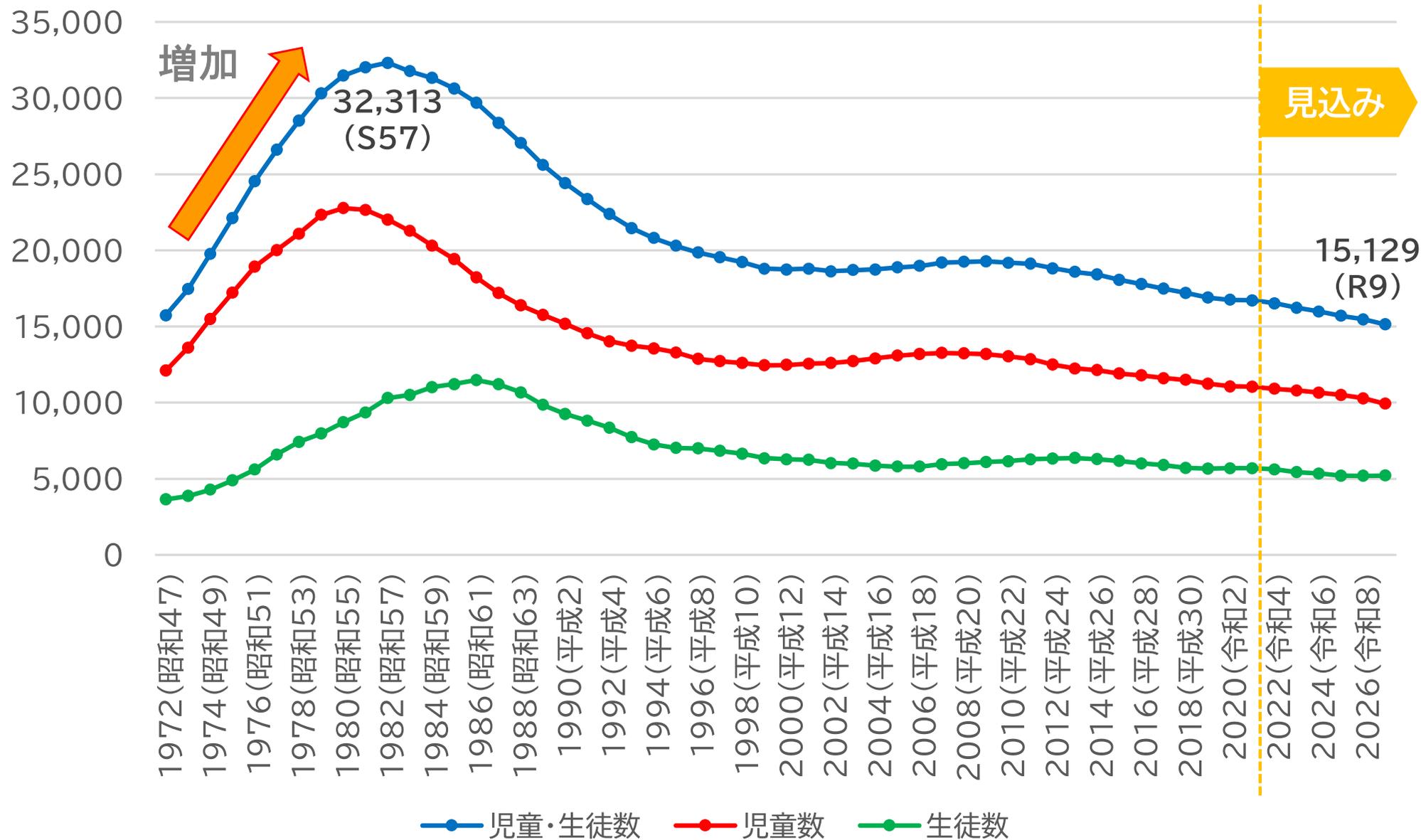
(1) 児童生徒数の減少

(2) 学級規模の偏り

(3) 学校施設の老朽化

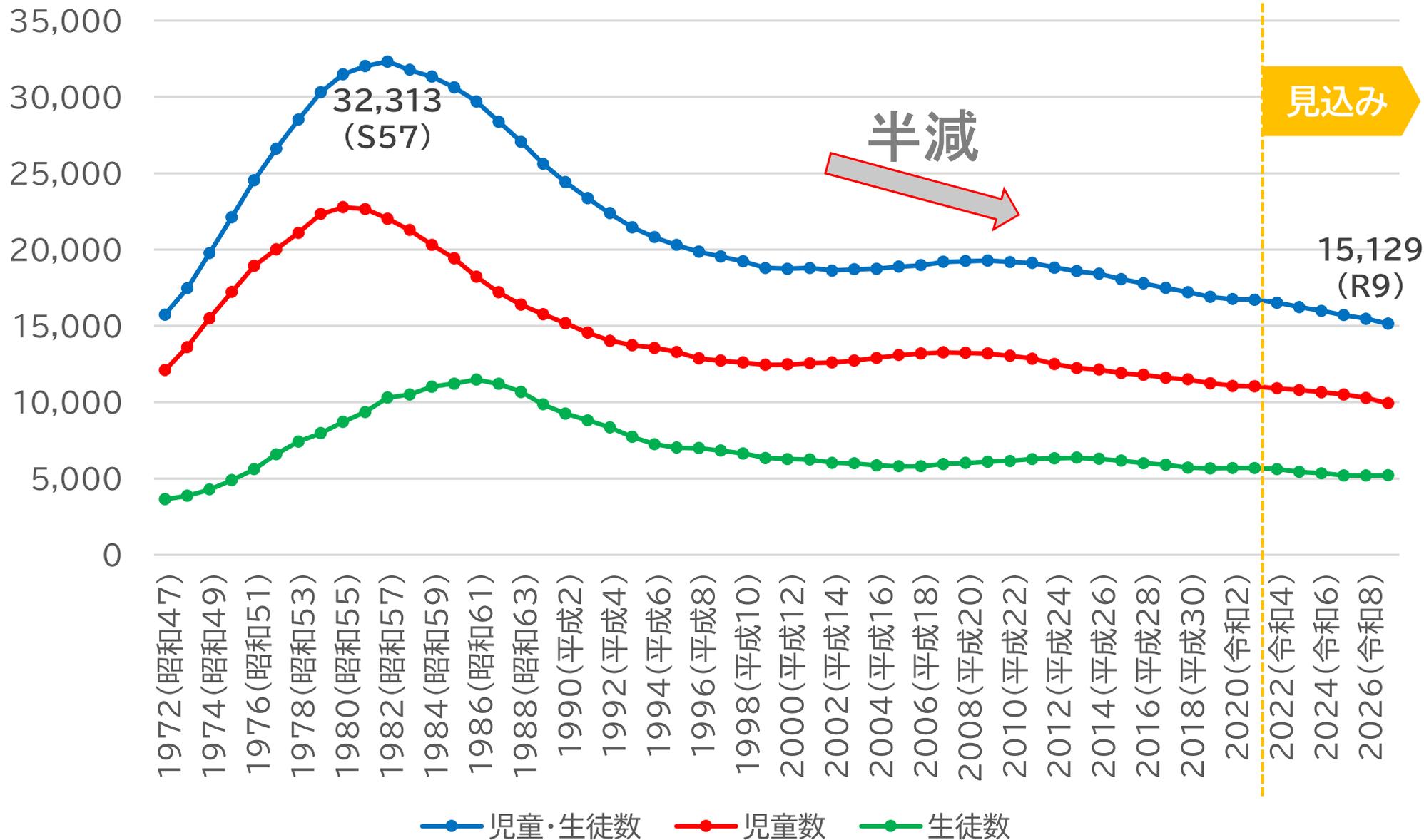
1. 現状と課題（（1）児童生徒数の減少）

- 1970年代は、児童生徒が急増



1. 現状と課題（（1）児童生徒数）

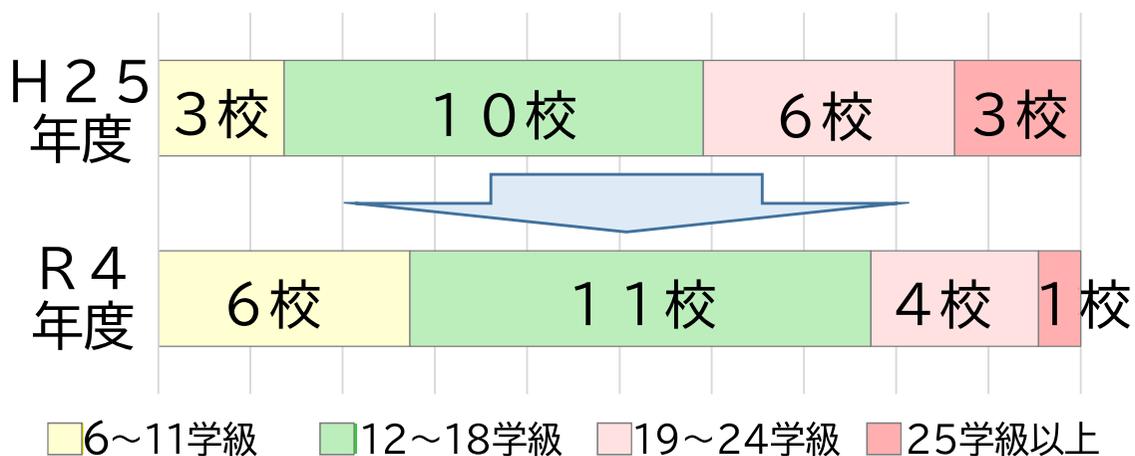
- 2010年以降は、児童生徒数ともに、減少傾向で推移
- 令和9(2027)年には、ピーク時の半数以下まで減少する見込み



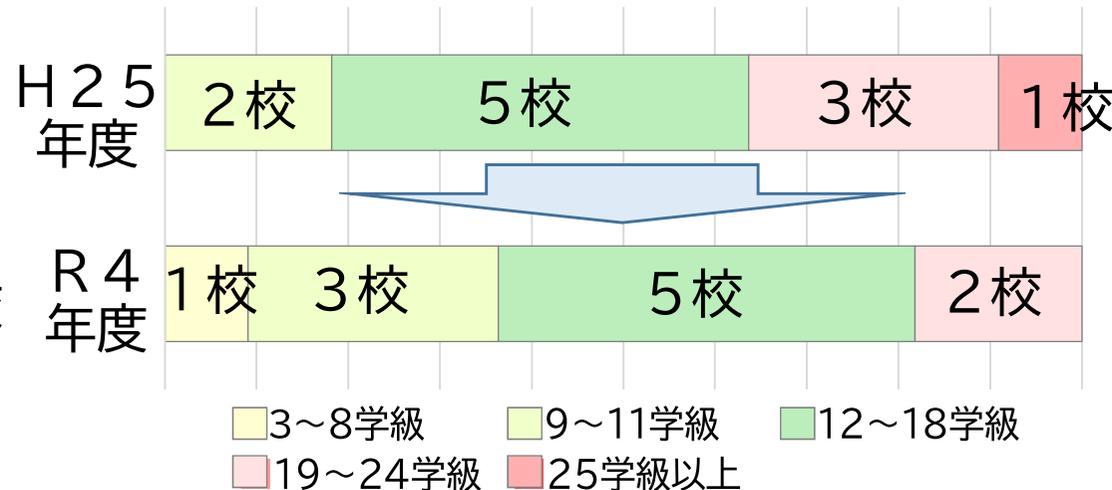
1. 現状と課題（（2）学校規模の偏り）

- 11学級以下の小規模な学校から25学級以上の大規模な学校まで、様々な規模の学校が点在
- 小中学校ともに25学級以上の大規模な学校が減少、11学級以下の小規模な学校が増加

■小学校(規模別)※特別支援学級は除く

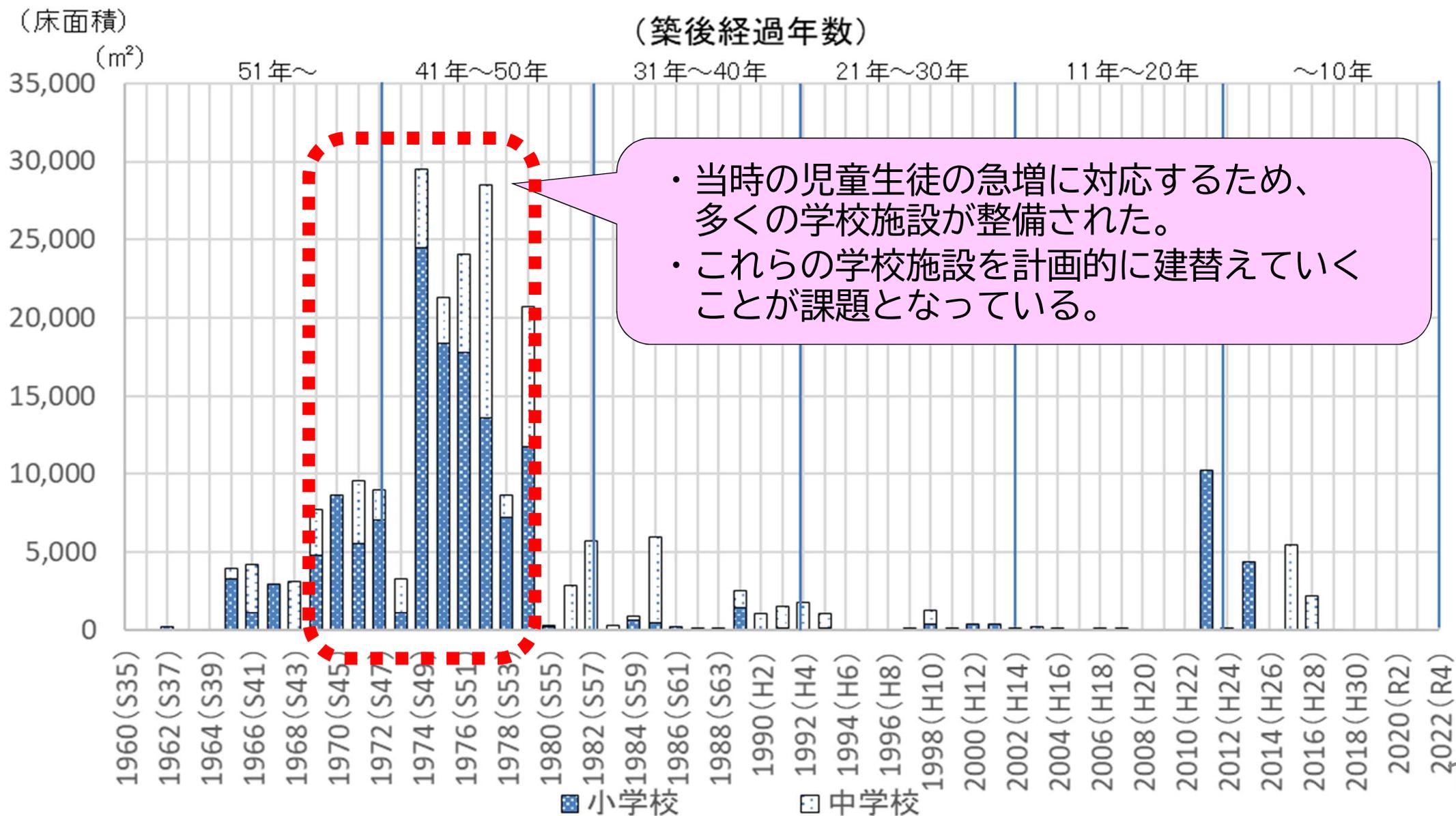


■中学校(規模別)※特別支援学級は除く



1. 現状と課題（（3）学校施設の老朽化）

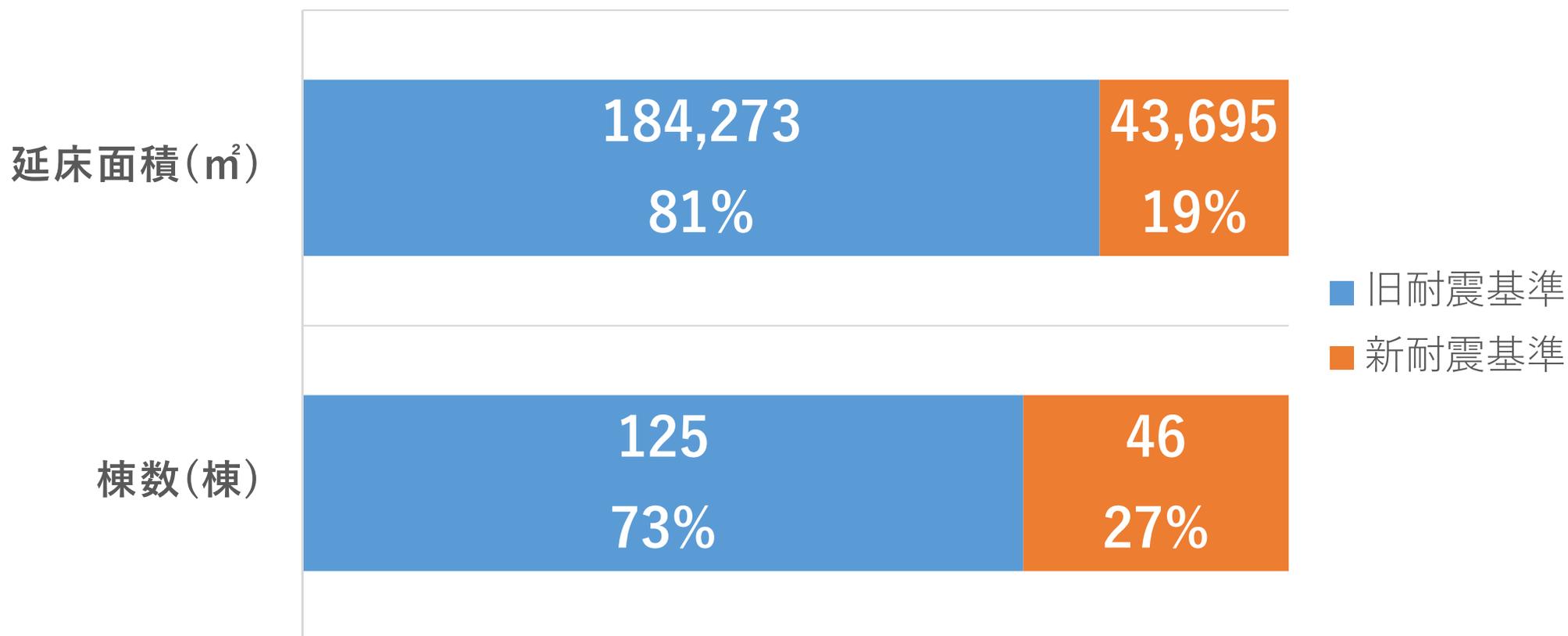
- 小中学校の多くは1970年代に整備されており、築後40年以上が経過し老朽化が進行
- これらの学校施設は建替え等が集中的に発生することが見込まれ、費用等の平準化が必要



1. 現状と課題（（3）学校施設の老朽化）

- 学校施設全体の約8割が、1981(昭和56)年5月以前に建設された旧耐震基準による建築物
- 子供たちの安心・安全のため、計画的に新耐震基準の学校施設への更新が必要

耐震基準の状況



1. 現状と課題（（3）学校施設の老朽化）

新耐震基準と耐震性能の目標

（新耐震基準）

建築基準法の昭和56年6月1日改正より前に用いられていた耐震基準により建築された建築物を旧耐震基準といい、昭和56年6月1日に施行された耐震基準により建築された建築物を新耐震基準といいます。

（耐震性能の目標）

現行の建築基準法施行令では、以下のような耐震性能を想定しています。

中地震時（震度5強程度）	建物に損傷が発生しないようにする
大地震時（震度6強～7程度）	建物に部分的な損傷は生じるものの、倒壊などの大きな損傷を防ぎ、人命が失われないようにする

1. 現状と課題（（3）学校施設の老朽化）

耐震改修の耐震性能の要件

（耐震改修の耐震性能の要件）

文部科学省では、公立学校施設の耐震改修の耐震性能の要件として、地震時の児童生徒の安全性、被災直後の避難場所としての機能性を考慮し、補強後のIs値が概ね0.7を超えることとしています。

※ Is値とは、建物の耐震性能を表す指標

Is値	構造耐力上主要な部分の地震 （震度6強から震度7程度）に対する安全性
0.3未満	地震の振動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性が高い
0.3以上～0.6未満	地震の振動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性がある
0.6以上	地震の振動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性が低い

1. 現状と課題（（3）学校施設の老朽化）



子供たちの安全・安心のために

耐震補強

平成29年度完了

子供たちの快適な環境整備

トイレの
リニューアル
平成28年度完了



1. 現状と課題（（3）学校施設の老朽化）

子供たちの快適な環境整備

全普通教室へのエアコン設置

平成23～27年度完了

音楽室へのエアコン設置

平成31年度設置完了



小中学校の体育館への

エアコン設置

令和4年度完了予定

上尾市学校施設更計画基本計画(骨子案)

2. 学校教育を取り巻く環境

最近の国(文部科学省)の動向

① G I G A スクール構想

(令和2年度～)

② 令和の日本型学校教育の構築を目指して

(令和3年1月)

③ 35人学級の実施

(令和3年4月～)

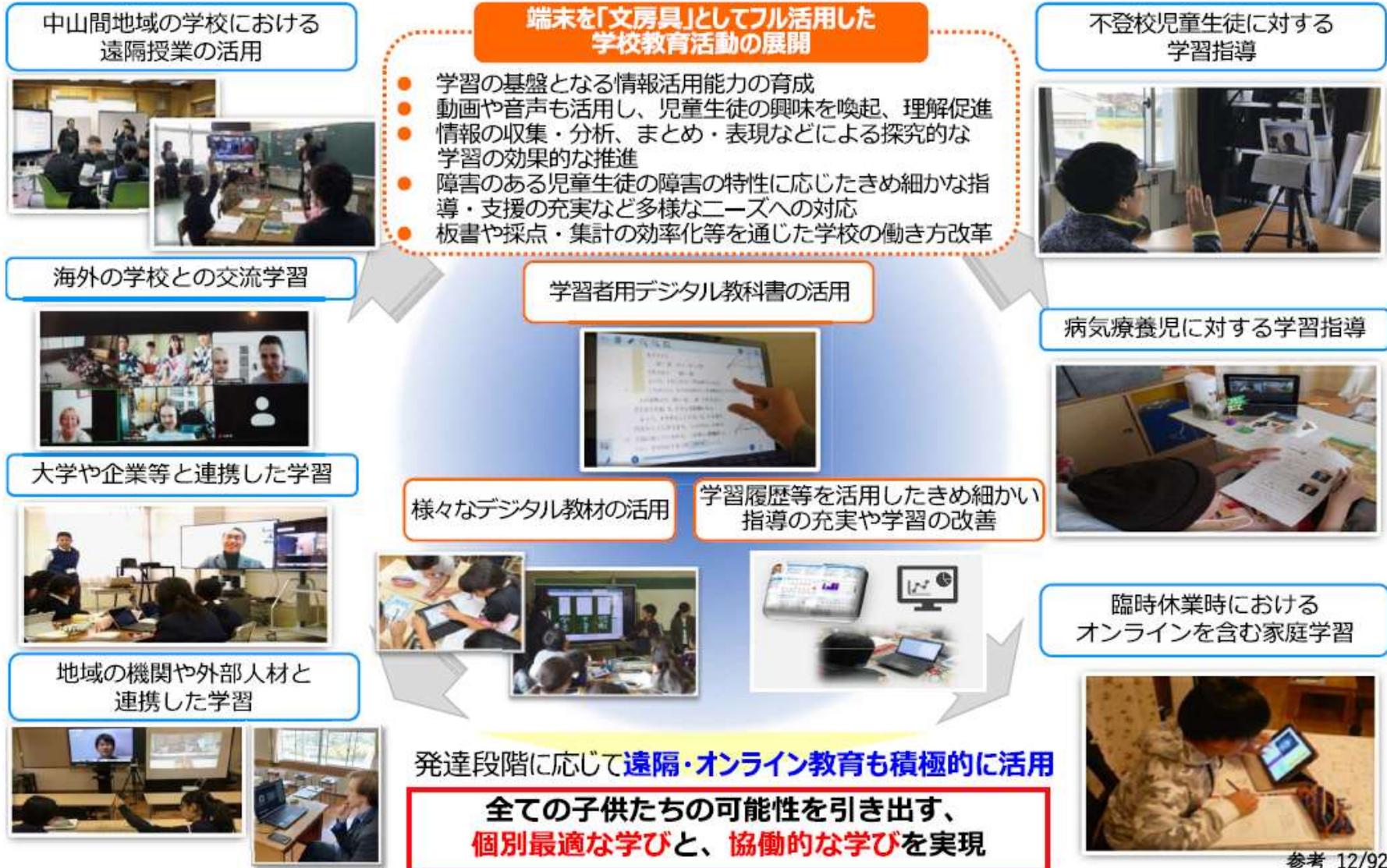
④ 新しい時代の学びを実現する学校施設

のあり方

(令和3年2月～)

「GIGAスクール構想」

GIGAスクール構想が目指す学びのDX
～1人1台端末・高速大容量ネットワークが広げる学びの可能性～



2. 学校教育を取り巻く環境

出典 文部科学省HP

「令和の日本型学校教育の構築を目指して」(中央教育審議会答申)
～ 全ての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現 ～

個別最適な学び

主体的・対話的で深い学び

B1 個に応じる学習



一人一人の習熟の程度等に応じた学習

B2 調査活動



インターネットを用いた情報収集、写真や動画等による記録

C1 発表や話し合い



グループや学級全体での発表・話し合い

C2 協働での意見整理



複数の意見・考えを議論して整理

B4 表現・制作



マルチメディアを用いた資料、作品の制作

B5 家庭学習



情報端末の持ち帰りによる家庭学習

C3 協働制作



グループでの分担、協働による作品の制作

C4 学校の壁を越えた学習



遠隔地や海外の学校等との交流授業

上尾市の取組「あげお学びのイノベーション」推進プラン



令和3年度より児童生徒1人1台端末を活用した授業を開始



保護者用リーフレットを毎月発行

令和4年度 あげお学びのイノベーション News

「新たな学び」を創り出す「あげお学びのイノベーション」に取り組んでいます！

子供たちの情報活用能力を育成する -ICT端末等の効果的な活用を通して-

子供たちが、変化の激しいこれからの社会を生き抜いていくためには、様々な情報を適切に活用できる力（情報活用能力）を身に付けることが不可欠です。
上尾市では、現在、ICT端末を活用した様々な授業等をおこなって、子供たちの「情報活用能力」を育んでいます。
今号では、学校教育の中で子供たちに育んでいる情報活用能力について紹介します。

「情報活用能力」とは？

「学習活動において必要に応じてコンピュータ等の情報手段を適切に用いて情報を得たり、情報を整理・比較したり、得られた情報をわかりやすく発信・伝達したり、必要に応じて保存・共有したりといったことができる力」のことです。

※出典：学習指導要領（平成29年告示）解説 総論編

- ★子供たちに身に付けさせたい情報活用能力として、次のような資質・能力があります。
 - 情報と情報技術を適切に活用するための知識と技能
 - 情報モラル・情報セキュリティなどについての理解
 - 問題解決・探究における情報を活用する力（プログラミング的思考 等を含む） など

学習の基盤となる資質・能力としての情報活用能力の育成（文部科学省） ★ぜひこちらの資料もお読みください

☆どの資質・能力も、子供たちが情報や情報技術を活用していくときに必要な力です。

みんな学習で情報活用能力を育みます！

【学習の例】

- ◎「情報技術に関する技能」について
 - ・インターネット上の情報の閲覧・検索
 - ・キーボードによる文字入力 など
 - ・目的に応じた適切なアプリケーションの選択と操作 など
- ◎「情報収集・整理・分析・表現・発信の理解」について
 - ・プレゼンテーションによる発信 など
- ◎「情報モラル・情報セキュリティの理解」について
 - ・コンピュータなどを利用するときの基本的なルールについての学習 など

ICTを使用しなくても、情報活用能力の育成につながる学習があります。
【例】取材した情報を整理して、自分の考えが伝わるように内容をまとめる学習 など
様々な学習場面で、情報活用能力に関わる資質・能力を育みます。

「クラウド・1人1台端末を活かした情報活用能力の育成」(Google for Education)
★ぜひこちらの動画もご覧ください

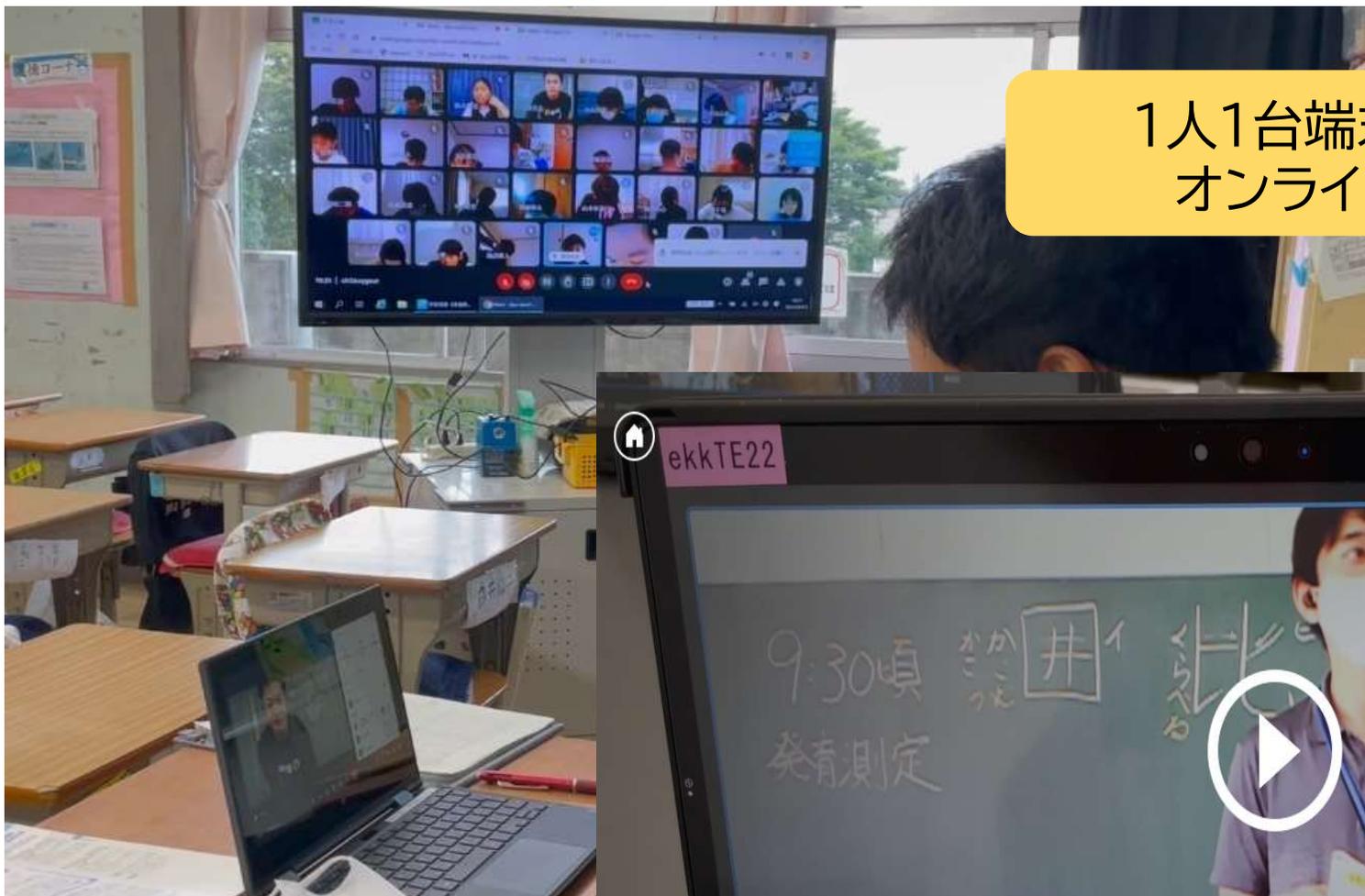
一 夢を育み 未来を創る 上尾の教育 一
上尾市教育委員会

令和4年度

あげお 学びのイノベーション

上尾市は、GIGAスクール構想により
今までの教育実践×最先端のICTで
新たな学びを創り出します！

上尾市の取組「あげお学びのイノベーション」推進プラン



1人1台端末等を活用した
オンライン学習の実施



新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、
登校できない児童生徒への授業の配信

夢を育み 未来を創る 上尾の教育

第3期上尾市教育振興基本計画（令和3年度～令和7年度）



3つの基本方針

生きる力を育む 絆を育む 学ぶ喜びを育む

ICT教育の推進「あげお 学びのイノベーション」

○1人1台のICT端末の効果的な活用推進

- ・ICT端末を活用した個別最適な学びと協働的な学びの実現
 - ・ICT端末を活用した授業研究会の実施
 - ・学校ICT支援員の派遣（各校週1回）
 - ・クラウド活用の促進
- 教職員のICT活用研修の充実
- 情報モラル教育の充実



いじめ根絶対策事業

シティズンシップ教育の推進

小中一貫に向けた教育の推進

確かな学力の育成

創意工夫を生かした教育指導の実施

小中一貫に向けた教育の推進

1年生から英語の授業を開始
【教育課程特例校】



オンラインによる
オーストラリア・ロッキヤー高校
との交流

「35人学級の実施(令和7年度まで段階的移行)」

公立義務教育諸学校の学級編成及び教員定数の標準に関する法律の一部を改正する法律の概要

【学級編制の標準の引下げに係る計画】

- i. 下表のとおり、小学校第2学年から学年進行により段階的に学級編制の標準を引き下げる。

年度	R3	R4	R5	R6	R7
学年	小2	小3	小4	小5	小6

- ii. 計画の実施に当たり、学級数の増加に伴い教室不足が生じ、施設整備に一定期間を要するなど、特別の事情がある場合には、各地方公共団体がその実情に応じて対応できるよう措置する。

令和3年度から7年度までの5年間をかけて
小学校の学級編制の標準を、
計画的に40人から35人に引き下げ
少人数学級の実現へ



新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方(5つの姿の方向性)

【新しい時代の学び舎として創意工夫により特色・魅力を発揮】

個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向け、柔軟で創造的な学習空間を実現

- ⇒ 1人1台端末環境等に対応した机を配置し、多様な学習を展開できる教室環境の整備
- ⇒ 個別学習や少人数学習など柔軟に対応できる多目的スペース、学習支援、教育相談等の環境整備
- ⇒ 教職員のコミュニケーション・リフレッシュの場（ラウンジ）、映像編集空間（スタジオ）の整備

(教室・教室周辺の空間の改善・充実に関する創意工夫の例)



1人1台端末環境等に対応したゆとりのある教室の整備



多目的スペースの活用による多様な学習活動への柔軟な対応



ロッカースペース等の配置の工夫等による教室空間の有効活用

学び

生活

共創

安全

環境

新しい生活様式を踏まえ、健やかな学習・生活空間を実現

- ⇒ 居場所となる温かみのあるリビング空間（小教室・コーナー、室内への木材利用）
- ⇒ 空調設備の整備、トイレの洋式化・乾式化、手洗い設備の非接触化

地域や社会と連携・協働し、ともに創造する共創空間を実現

- ⇒ 地域の人たちと連携・協働していく活動・交流拠点として「共創空間」を創出
- ⇒ 地域の実情等に応じた他の公共施設等との複合化・共用化等

【新しい時代の学び舎の土台として着実に整備を推進】

子供たちの生命を守り抜く、安全・安心な教育環境を実現

- ⇒ 老朽化対策等により、安全・安心な教育環境を確保
- ⇒ 避難所として自家発電・情報通信設備、バリアフリー、水害対策等の防災機能を強化

脱炭素社会の実現に貢献する、持続可能な教育環境を実現

- ⇒ 屋根や外壁の高断熱化や高効率照明などの省エネルギー化、太陽光発電設備の導入の促進により、ZEB（ネット・ゼロ・エネルギー・ビル）を推進
- ⇒ 環境や地域との共生の観点から学校における木材利用（木造化、室内利用）を推進

全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実



新しい時代の学び舎として目指していく姿

「未来思考」をもった上で、「全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」に向けて、これからの新しい時代の学び舎として目指していく姿を示す。

新しい時代の学び舎として創意工夫により特色・魅力を発揮するものとして、その中心となる「幹」に『学び』を据え、その学びを豊かにしていく「枝」として『生活』『共創』の空間を実現する。

また、新しい時代の学び舎の土台として着実に整備を推進していく「根」として『安全』『環境』の確保を実現する。

子供たちのための新しい学校づくり に関するアンケート（速報）

アンケート（速報）

①市民アンケート

○実施期間 令和4年7月1日（金）～20日（水）

○実施方法 郵送

対象	送付件数	回答数	回答率
18歳以上	3,000	1,042	34.7%
未就学児保護者	1,500	655	43.7%

②学校アンケート

○実施期間 令和4年7月1日（金）～7月20日（水）【保護者】
令和4年7月1日（金）～9月2日（金）【児童・生徒、教員】

○実施方法 WEB（※1, 2）

※1 児童・生徒及び教員は、ICT端末を活用

※2 保護者は「さくら連絡網」のアンケート機能を活用

※3 保護者の対象件数は全児童・生徒の対象世帯数

対象	対象件数	回答数	回答率
児童（第5・6学年）	3,689	2,986	80.9%
生徒	5,662	4,152	73.3%
保護者	11,729（※3）	10,299	87.8%
教員	1,013	646	63.8%

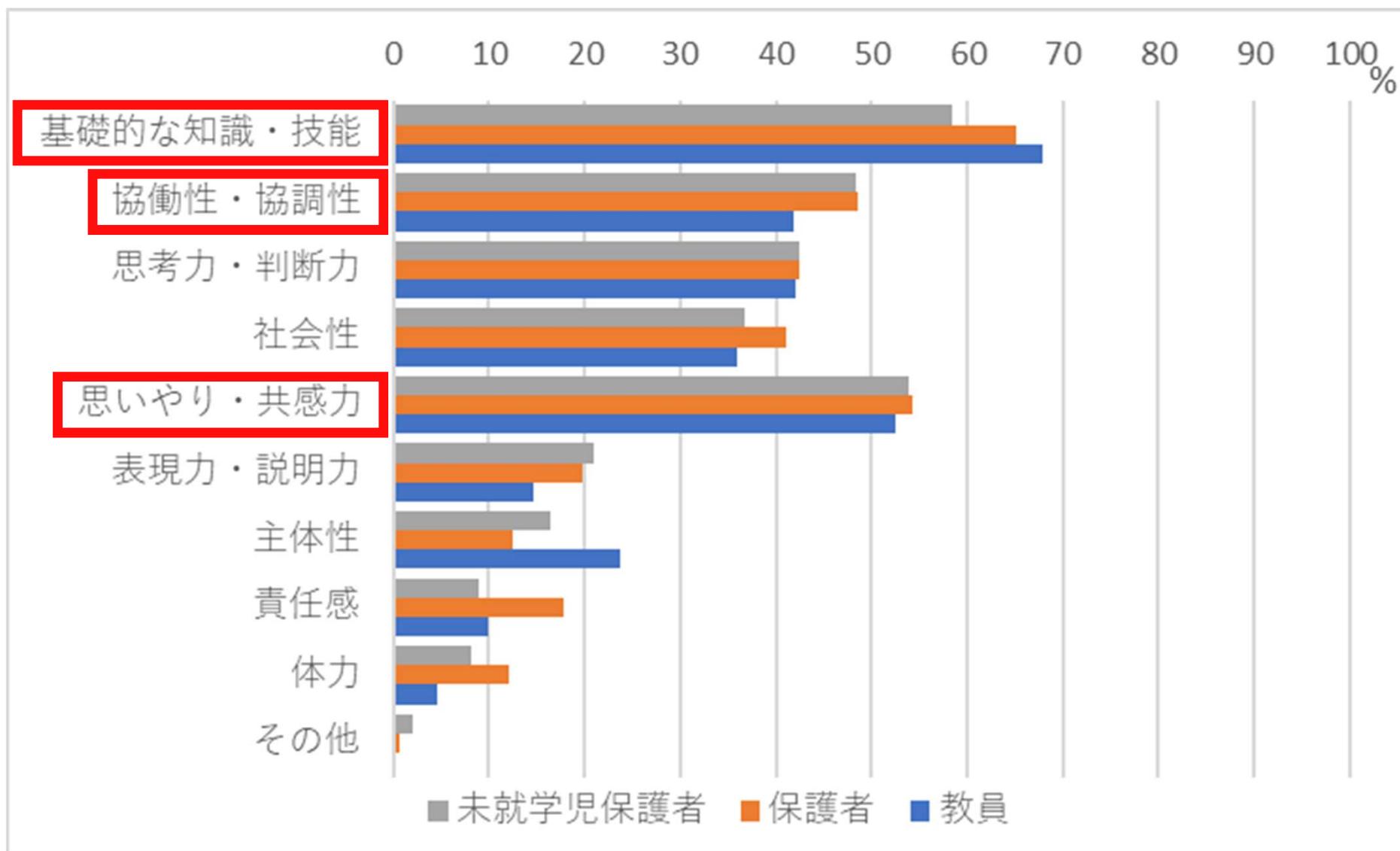
調査項目

- （１）小中学校の教育環境（保護者、教員）
- （２）小中学校の学校の規模（保護者、教員）
- （３）小中一貫教育（18歳以上、保護者、教員）
- （４）新しい学校づくり（18歳以上、保護者、教員）
- （５）学校の再編（18歳以上、保護者、教員）

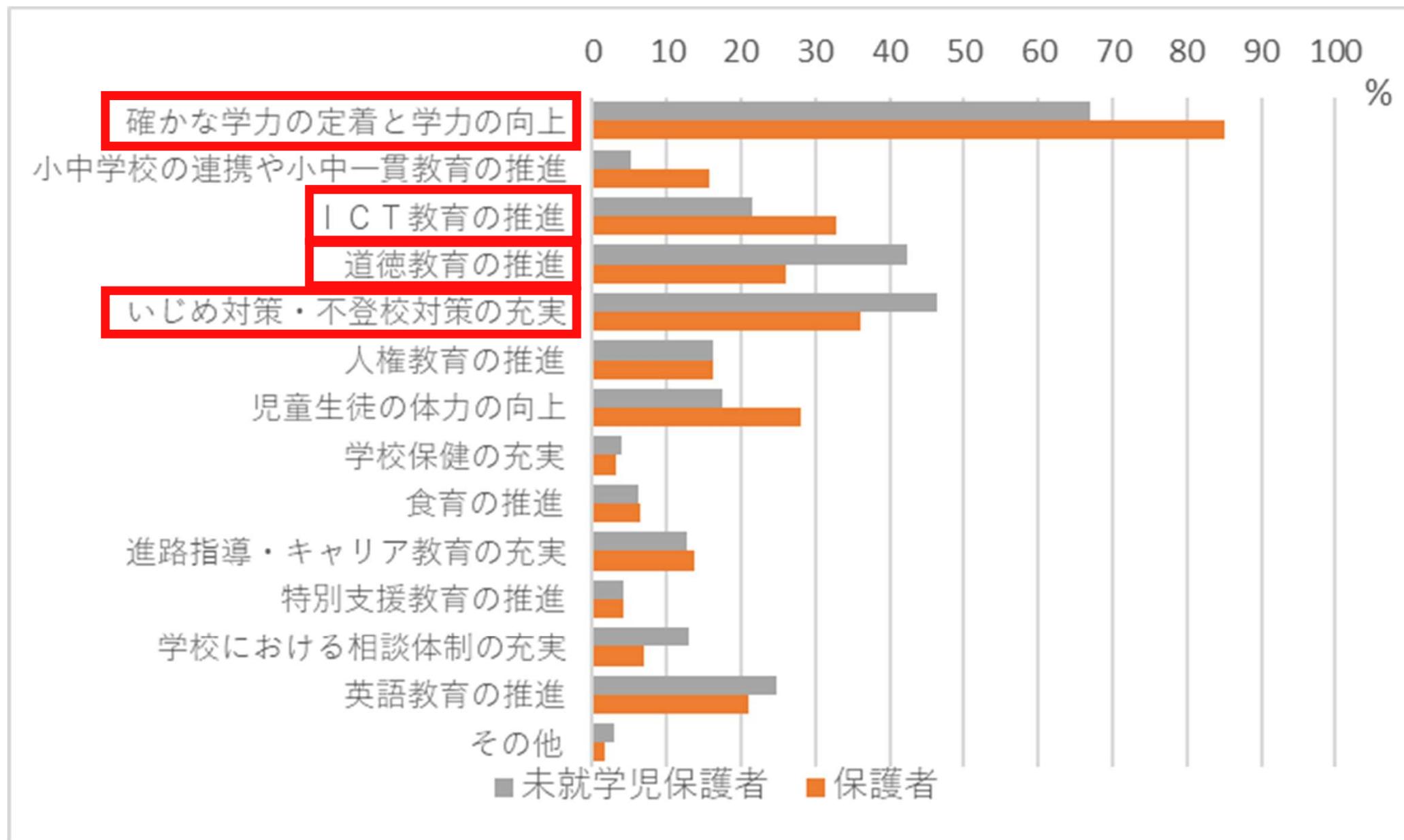
(1)小中学校の教育環境

アンケート（速報）（1）小中学校の教育環境

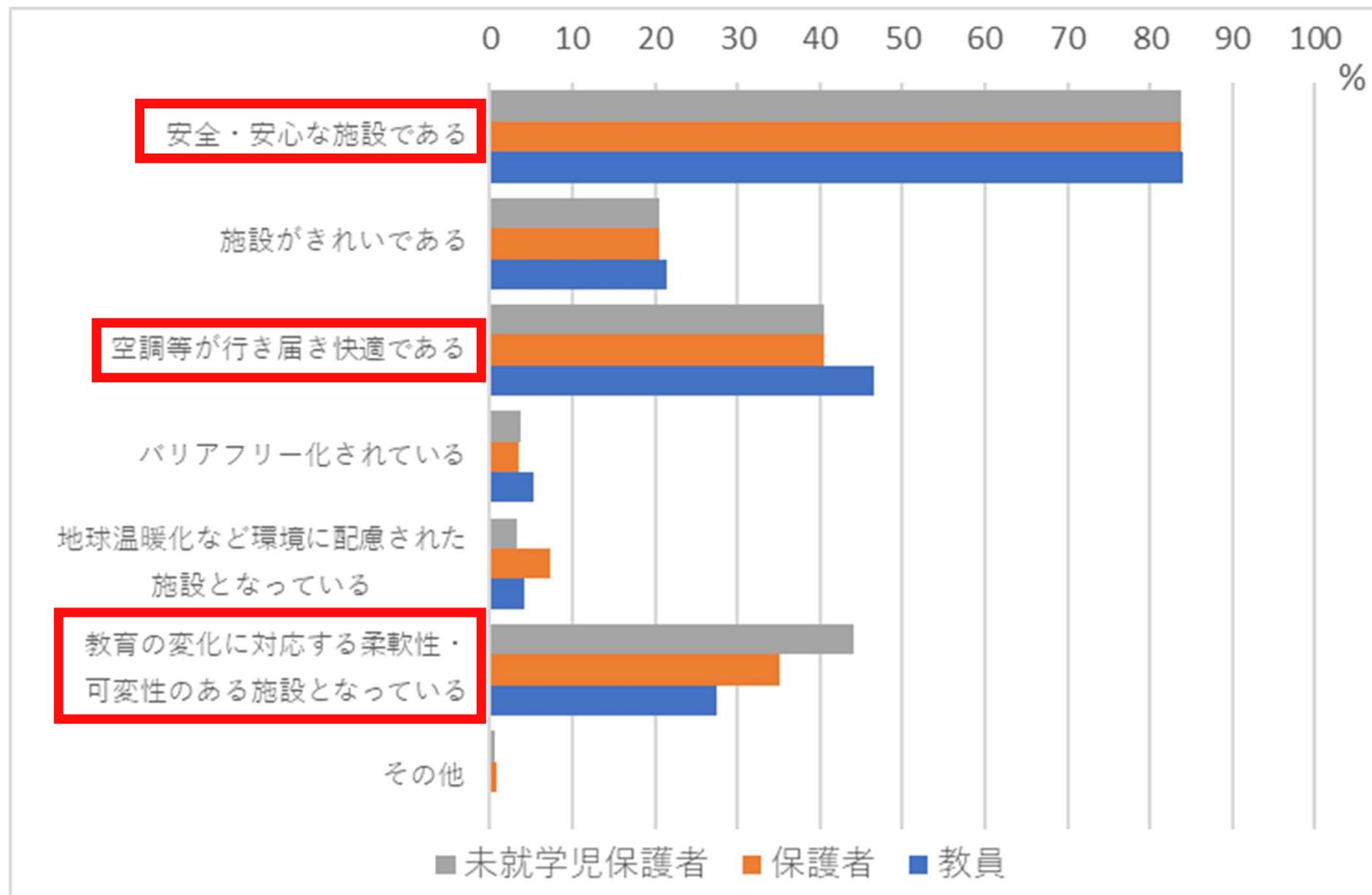
1）児童生徒（子供）が学校で身につけてほしいこと【複数回答】



2）学校教育に求めるもの【複数回答】

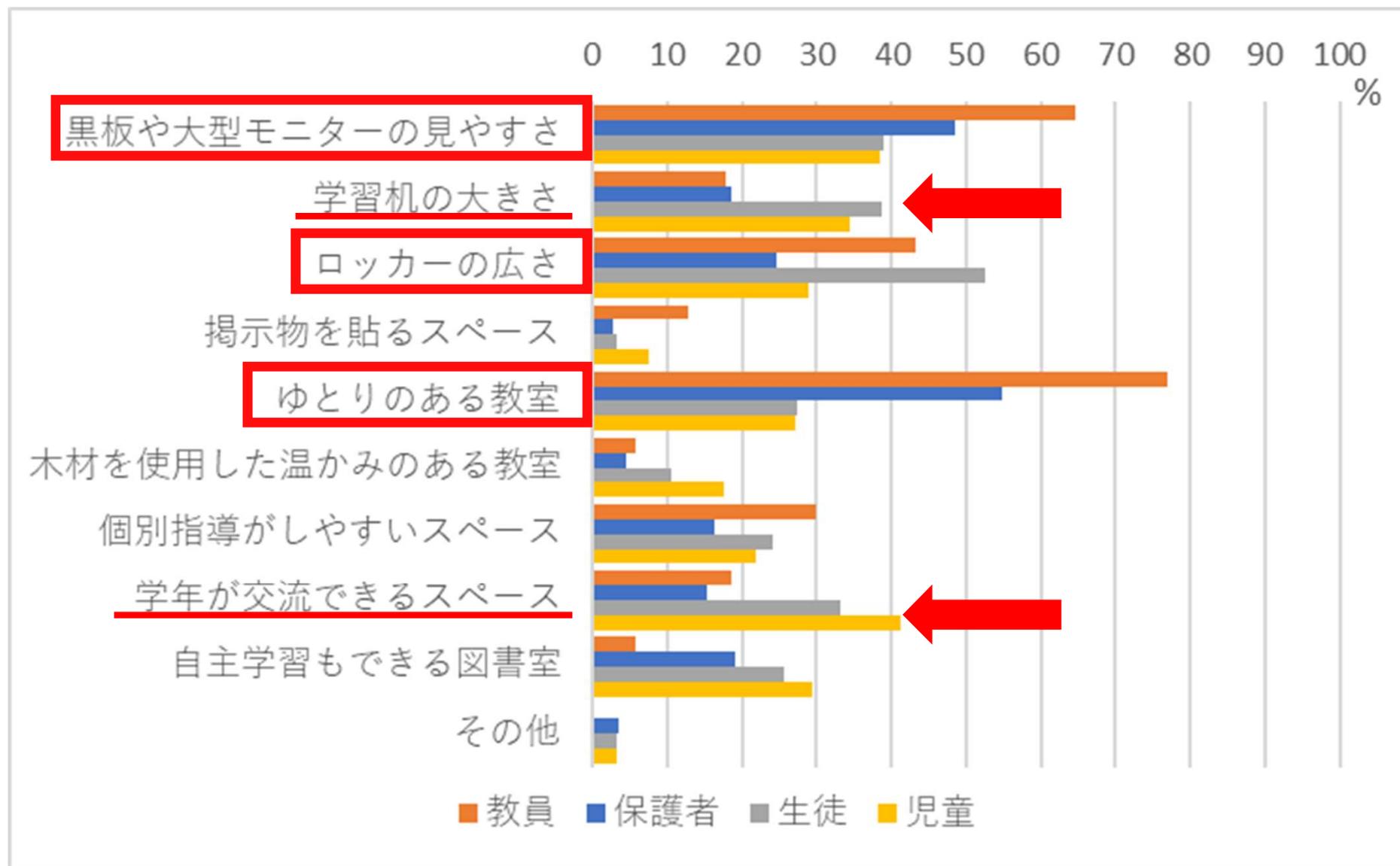


3) 学校施設について大事なこと【複数回答】



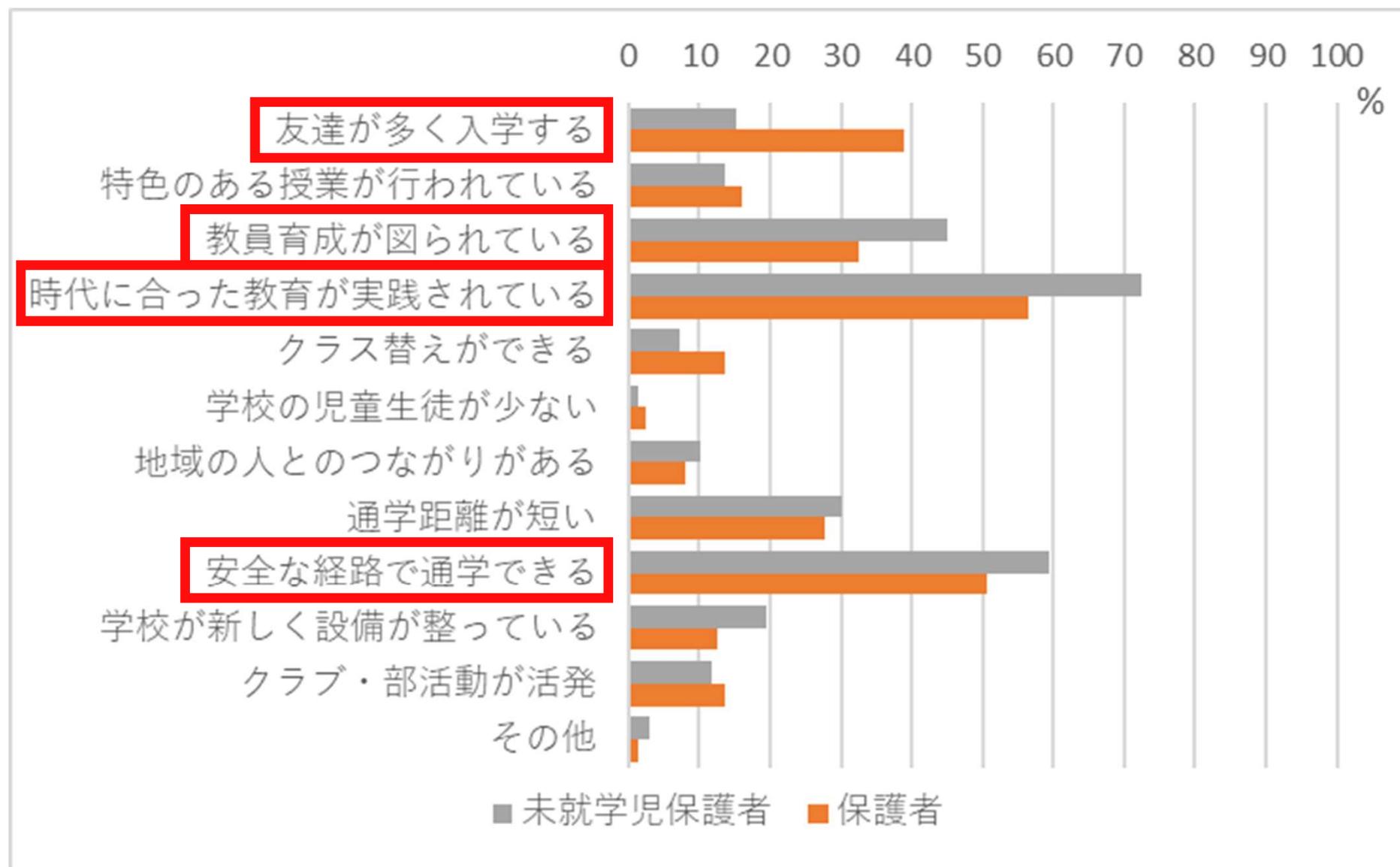
アンケート（速報）（1）小中学校の教育環境

4）学校の教室に必要なこと【複数回答】



アンケート（速報）（1）小中学校の教育環境

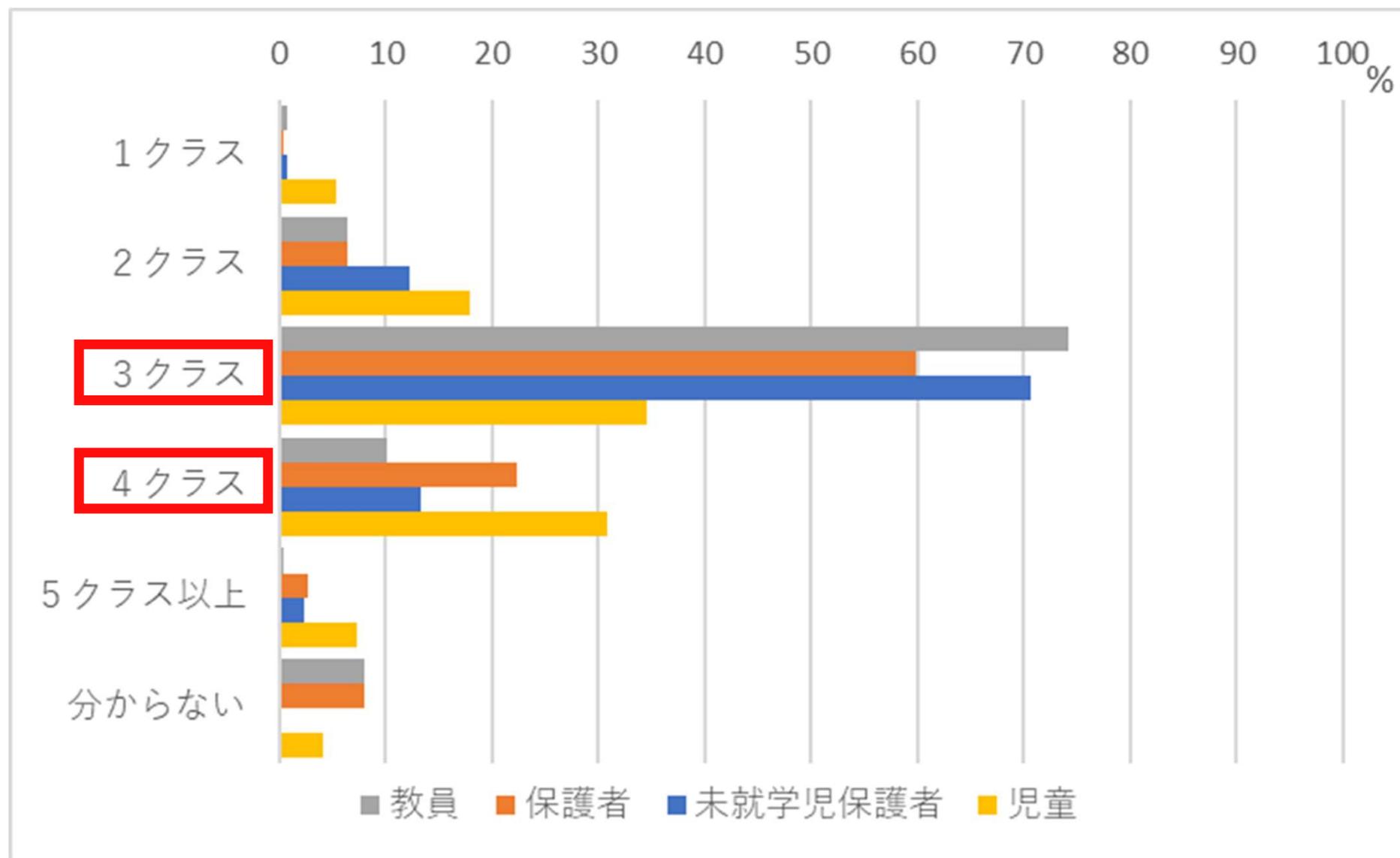
5) 学校の教育環境について重要なこと【複数回答】



(2)小中学校の学校の規模

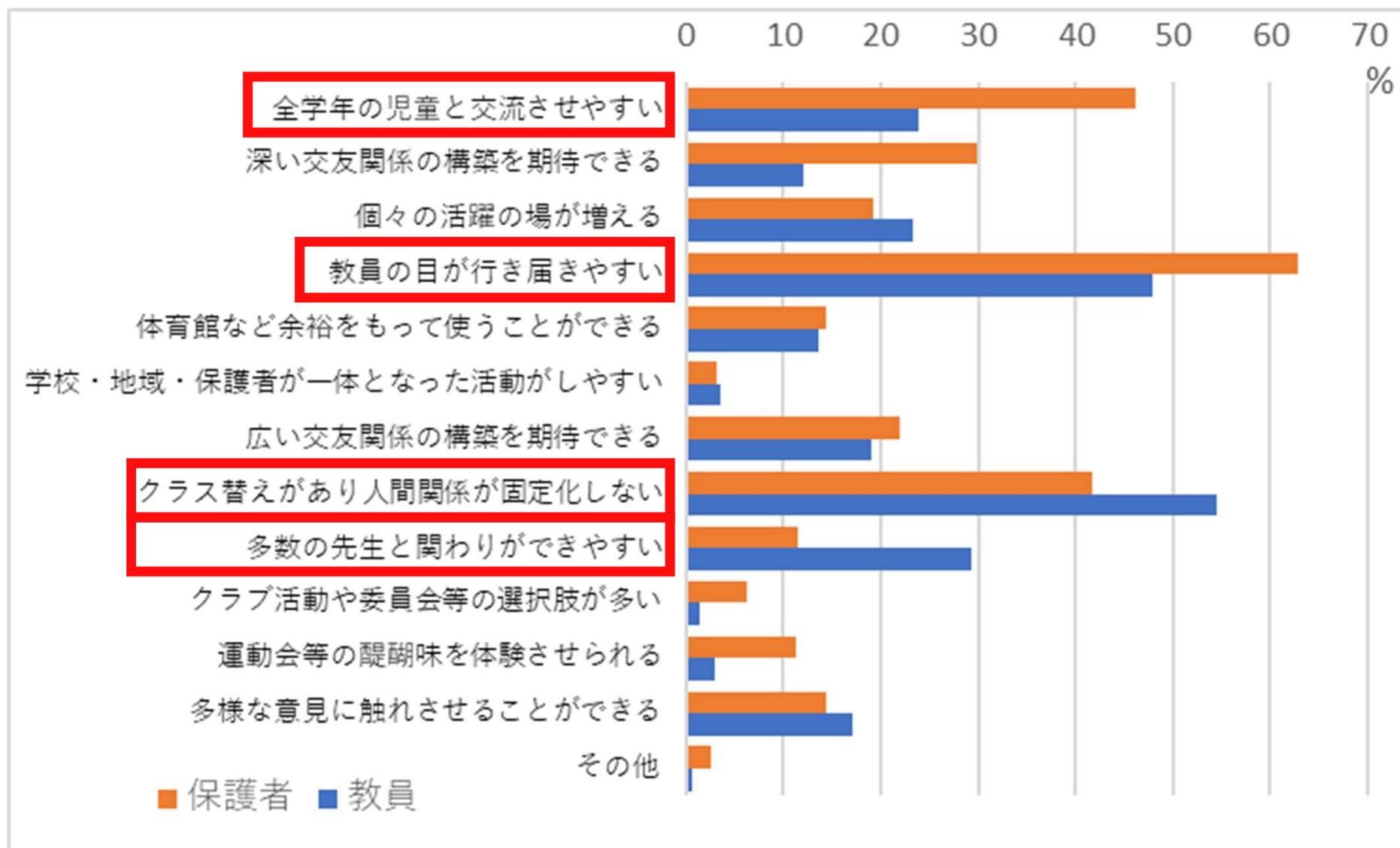
アンケート（速報）（2）小中学校の学校の規模

1) 小学校1学年あたりの適切であると思うクラス数【単数回答】



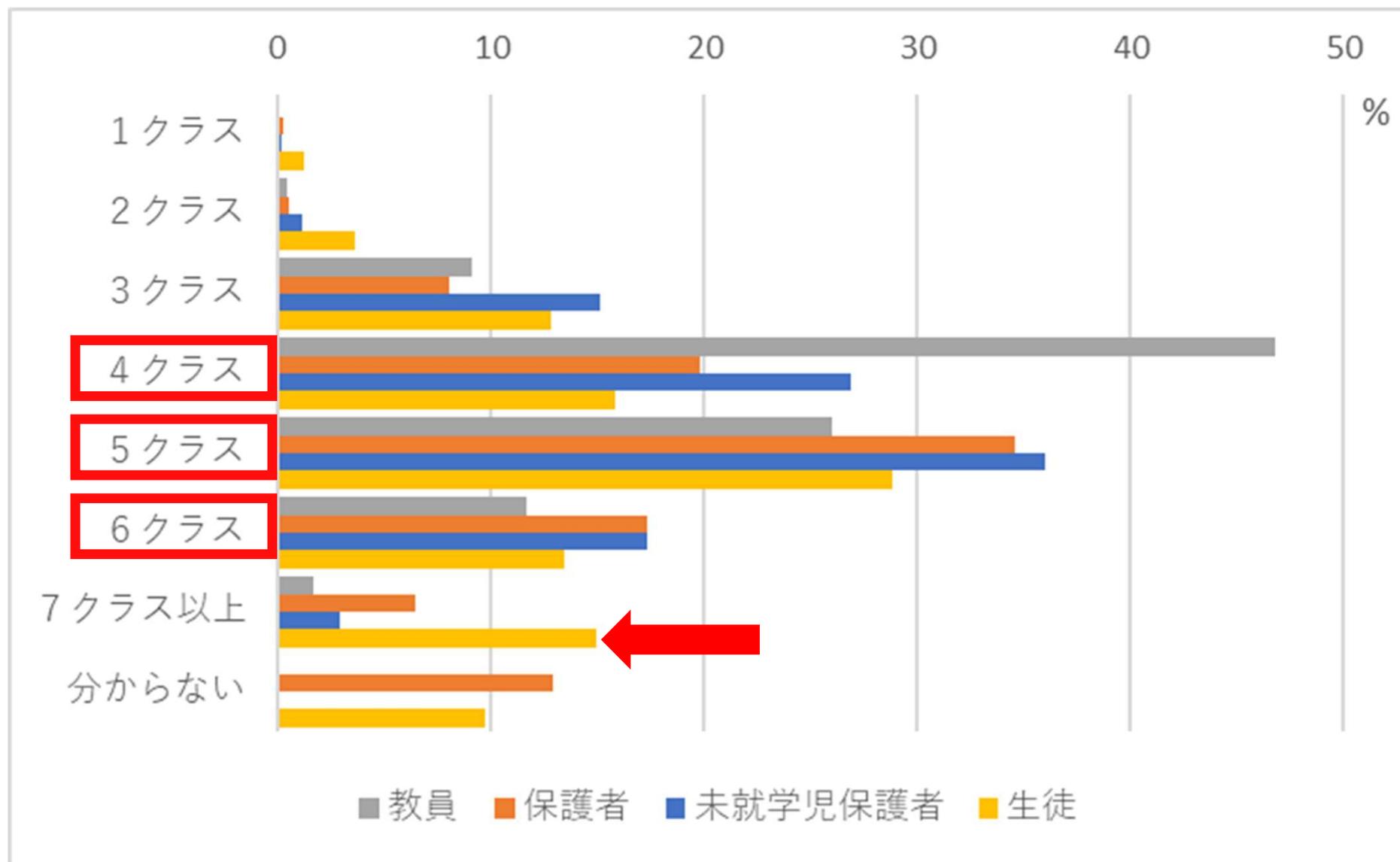
アンケート（速報）（2）小中学校の学校の規模

2）小学校1学年あたりの適切であると思うクラス数の理由【複数回答】



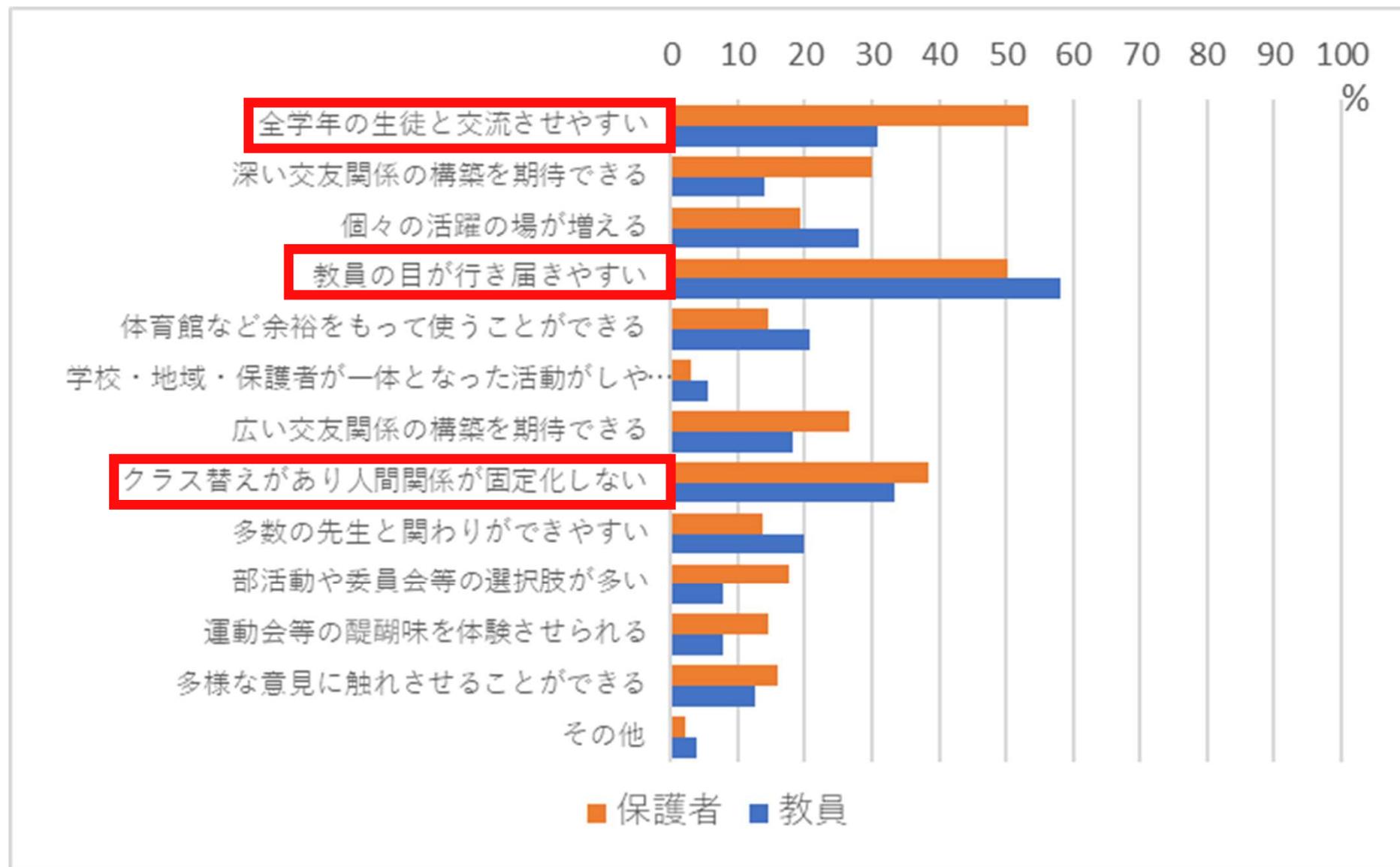
アンケート（速報）（2）小中学校の学校の規模

3）中学校1学年あたりの適切であると思うクラス数【単数回答】

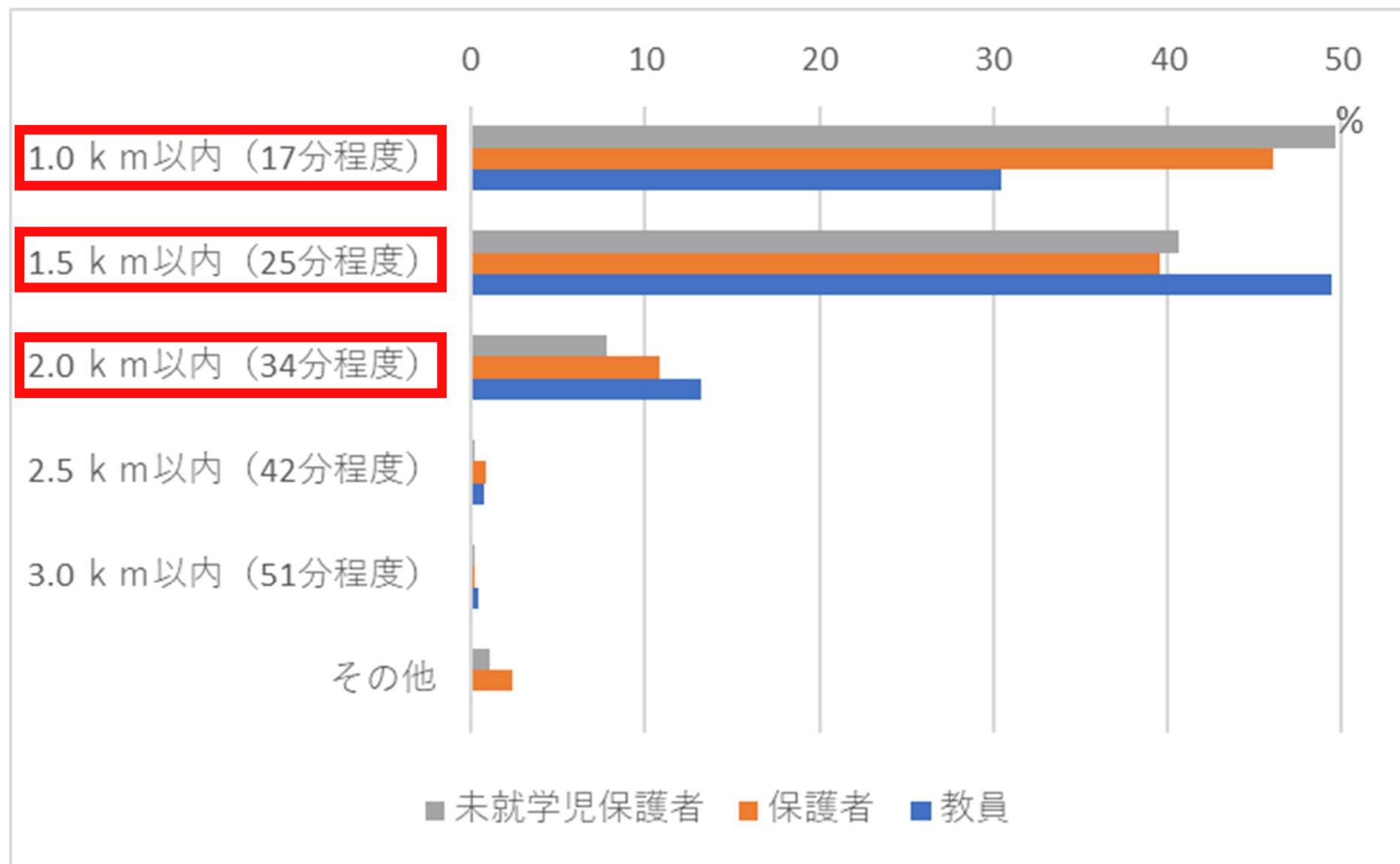


アンケート（速報）（2）小中学校の学校の規模

4）中学校1学年あたりの適切であると思うクラス数の理由【複数回答】

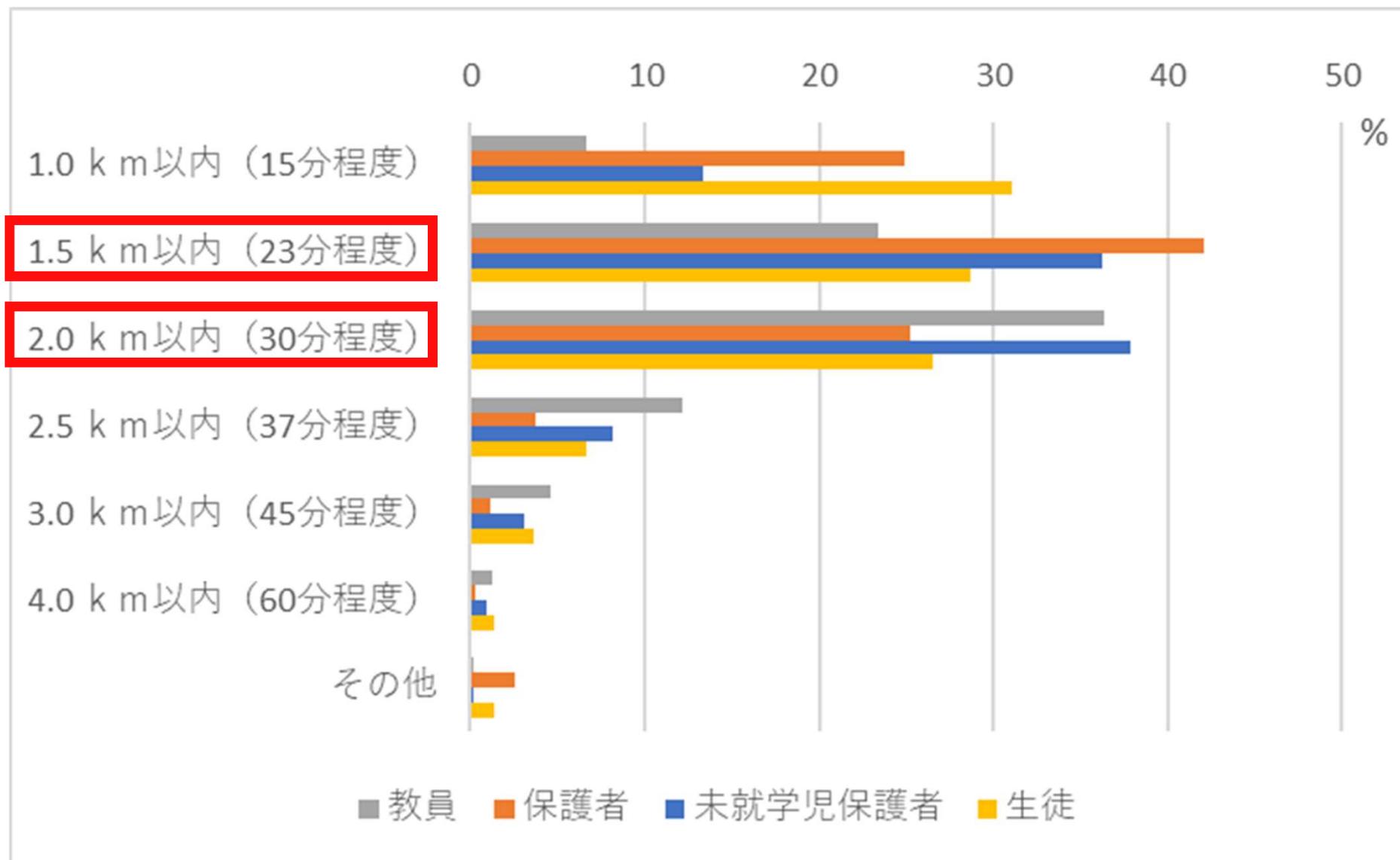


5）小学校までの片道通学距離の上限【単数回答】



アンケート（速報）（2）小中学校の学校の規模

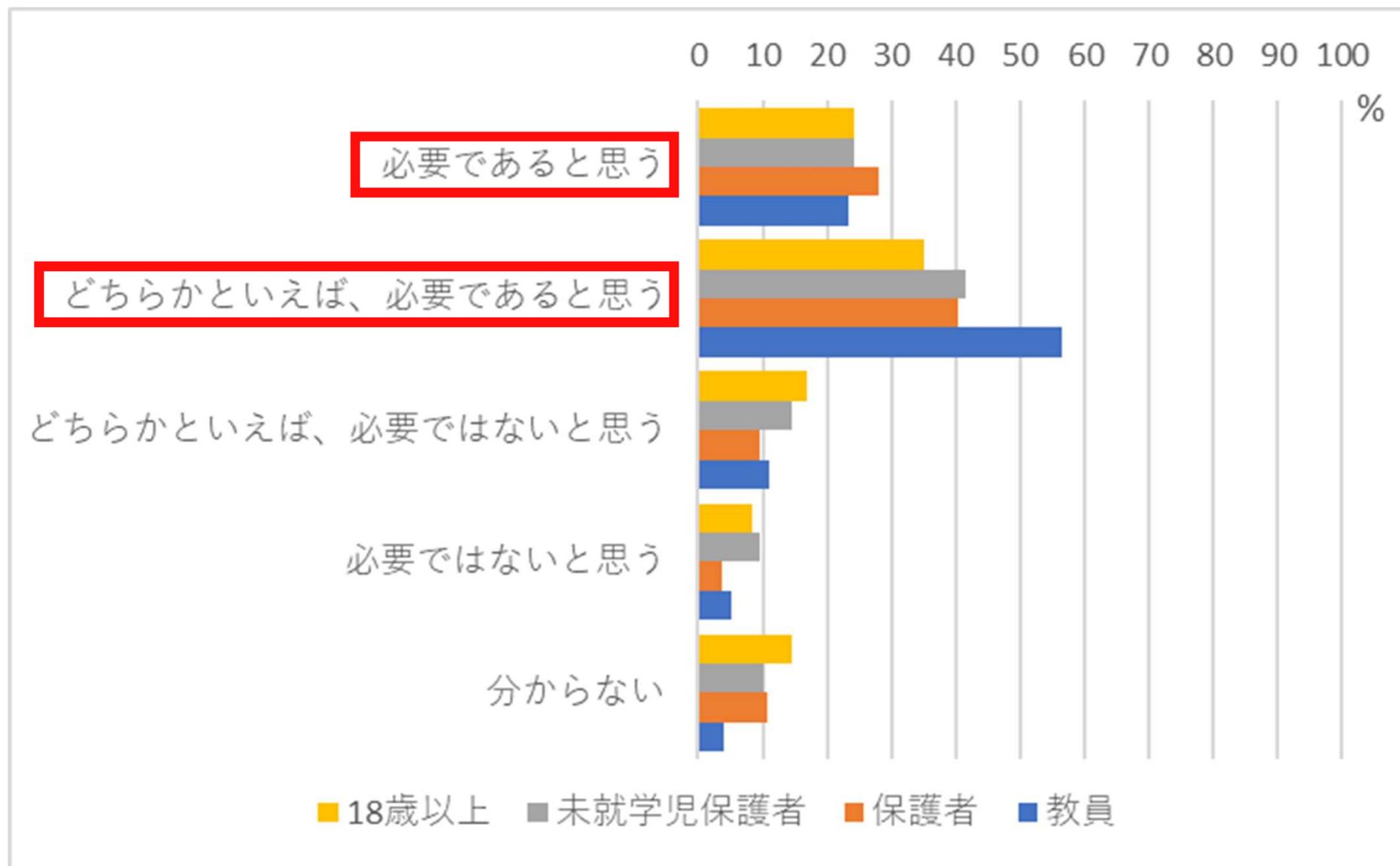
6）中学校までの片道通学距離の上限【単数回答】



(3)小中一貫教育

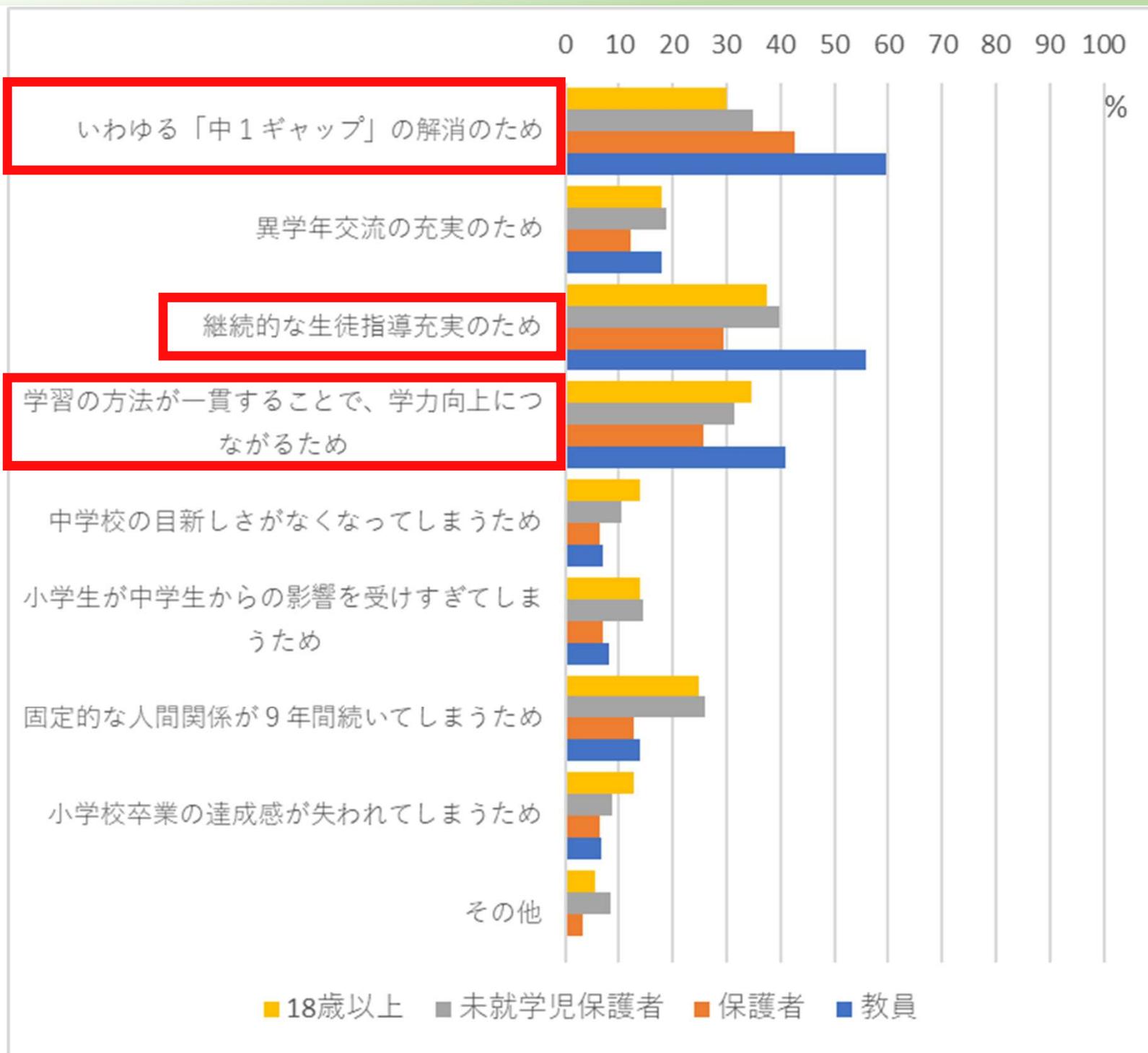
アンケート（速報）（3）小中一貫教育

1) 小中一貫教育の取組の是非について【単数回答】



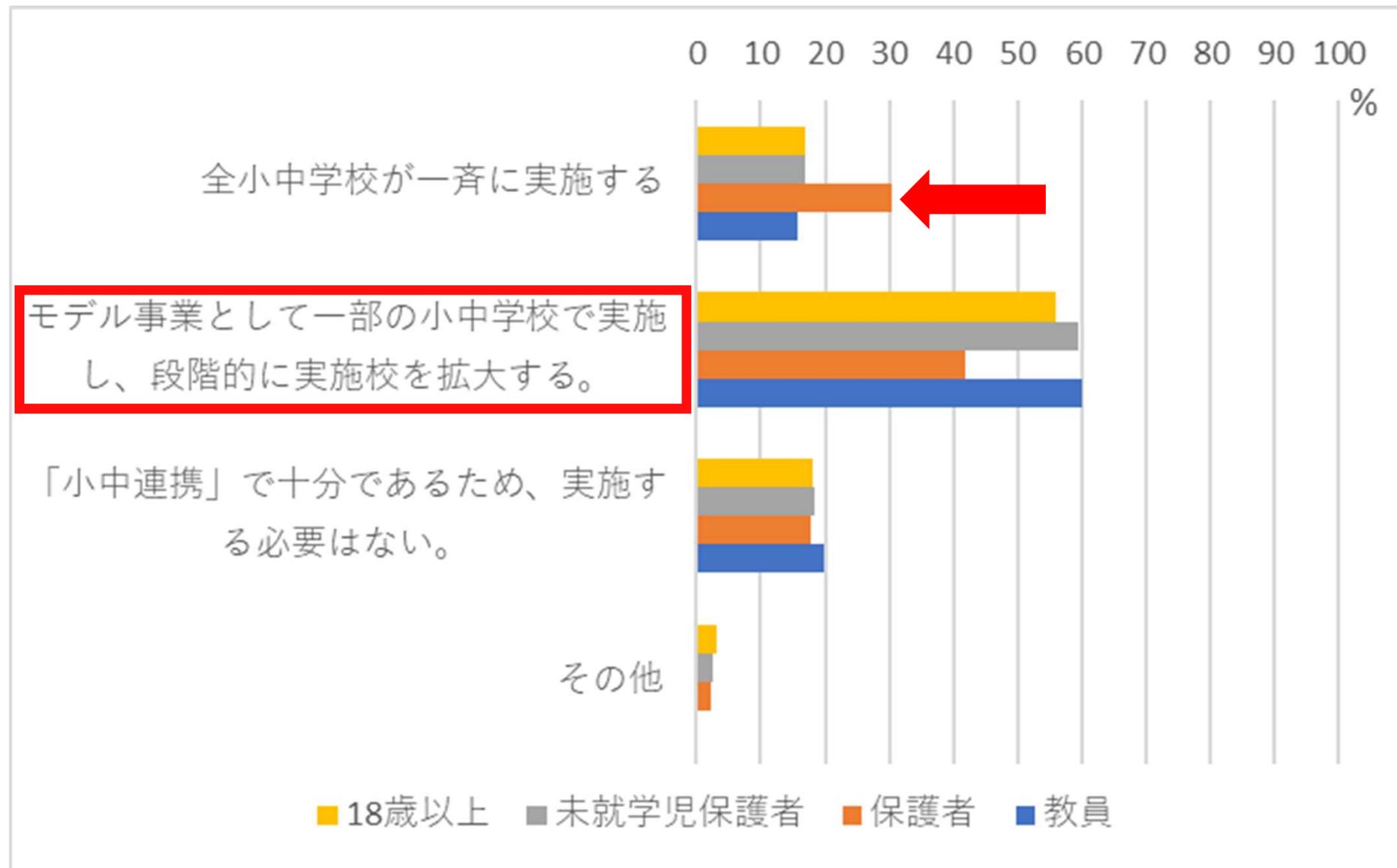
アンケート（速報）（3）小中一貫教育

2) 小中一貫教育の取組の是非について、その理由【複数回答】



アンケート（速報）（3）小中一貫教育

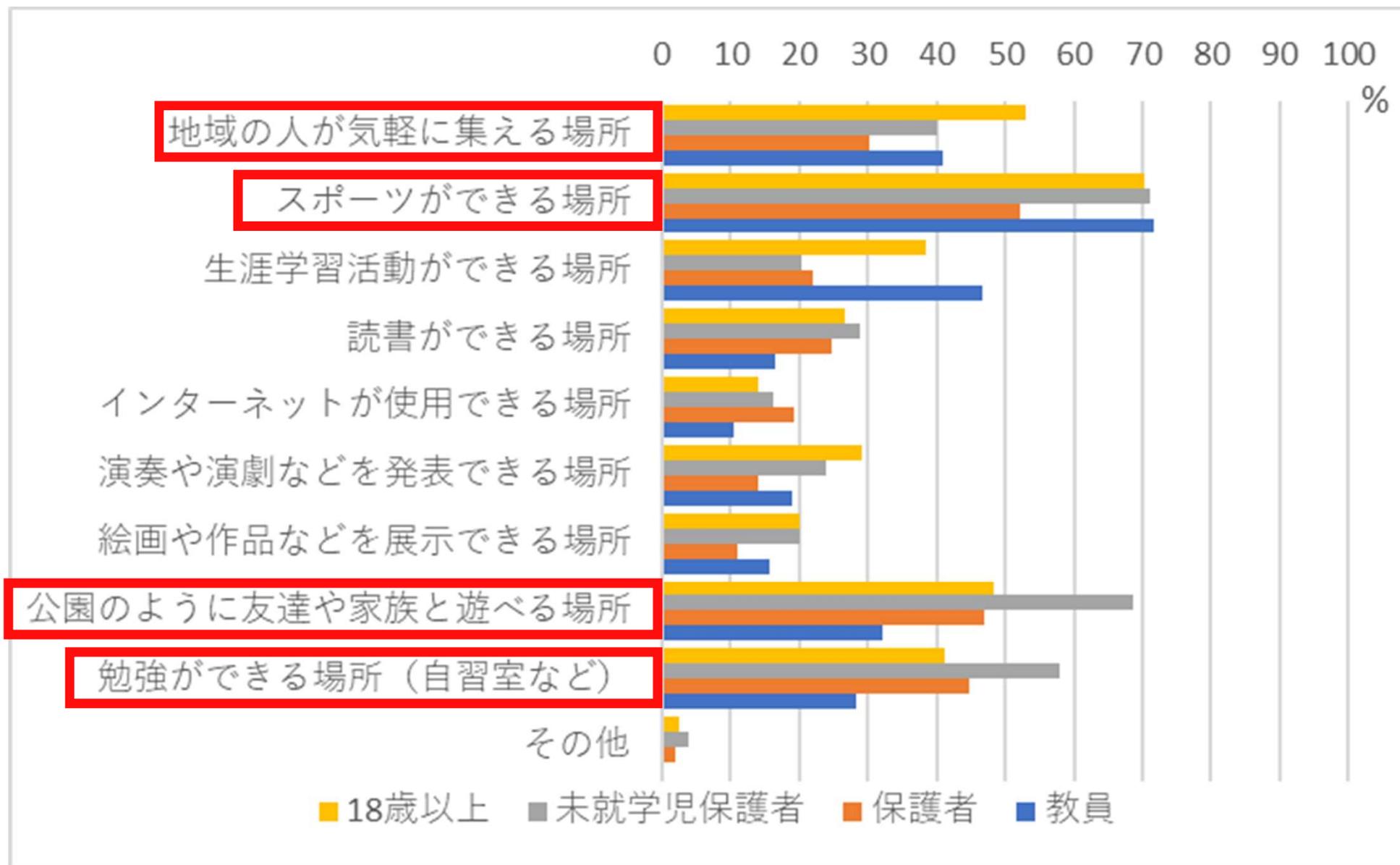
3）小中一貫教育の実施方法【単数回答】



(4)新しい学校づくり

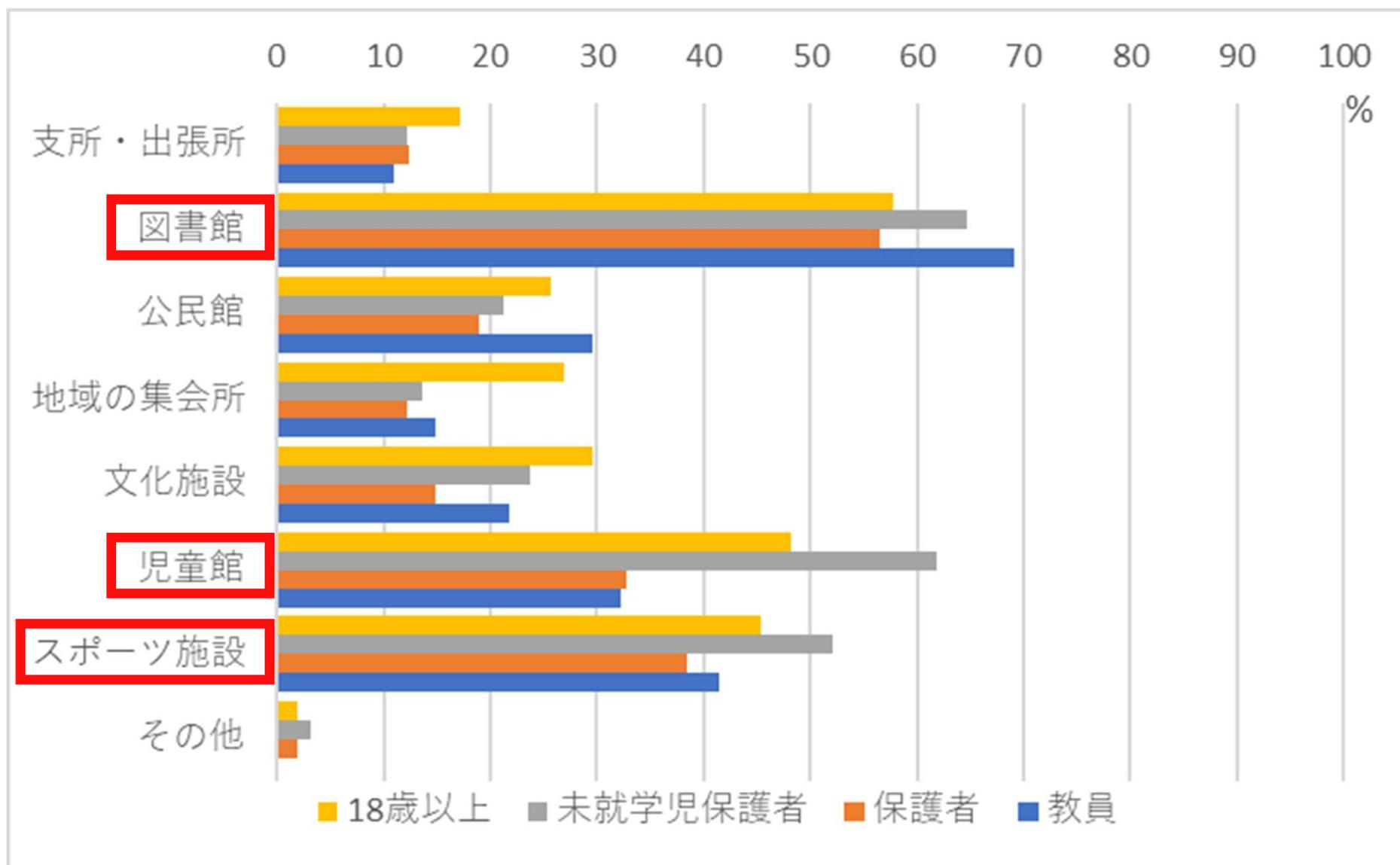
アンケート（速報）（４）新しい学校づくり

1) 放課後や休日の学校をどのように使えると便利か【複数回答】



アンケート（速報）（４）新しい学校づくり

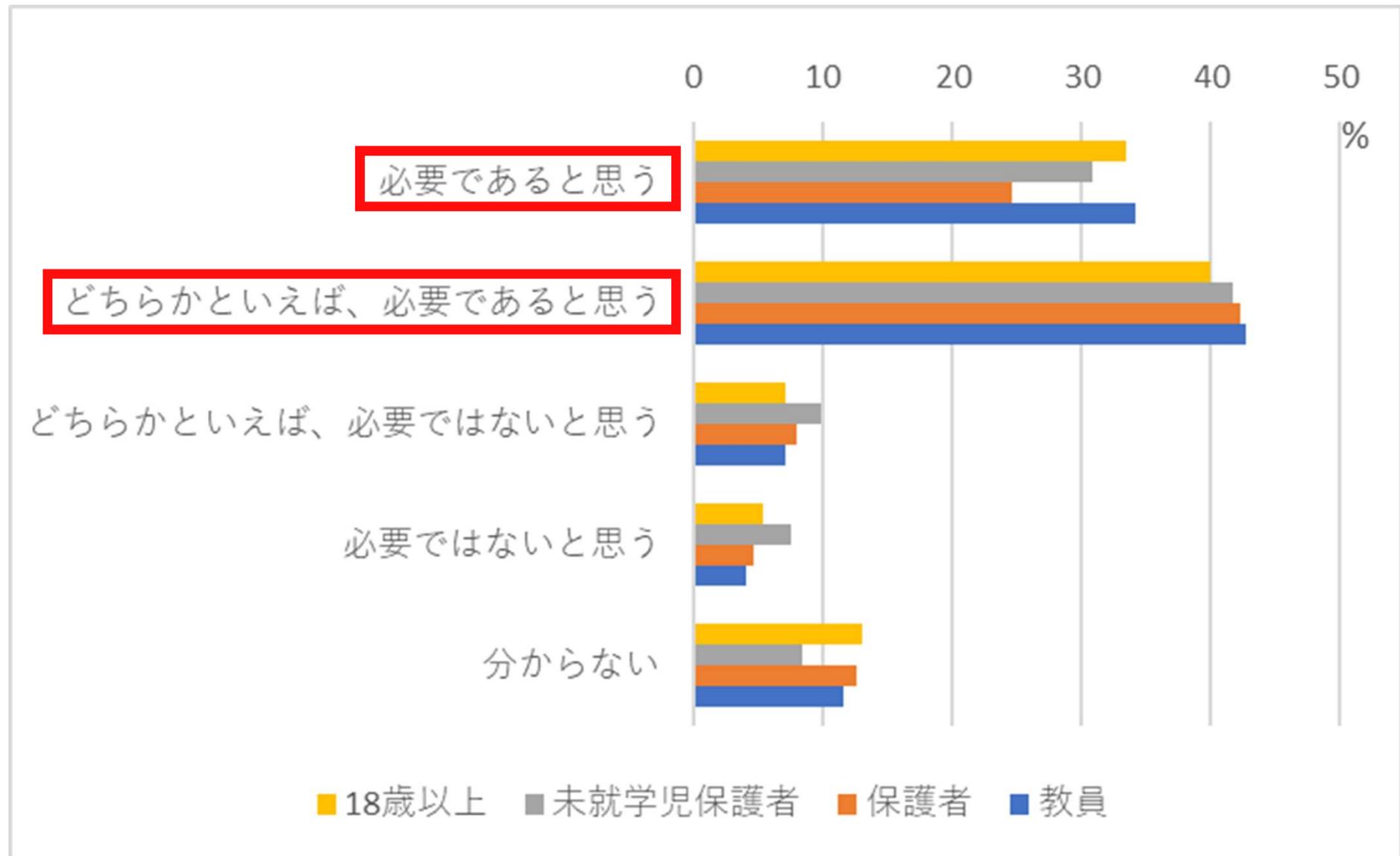
２）学校と他の公共施設との複合化【複数回答】



(5)学校の再編

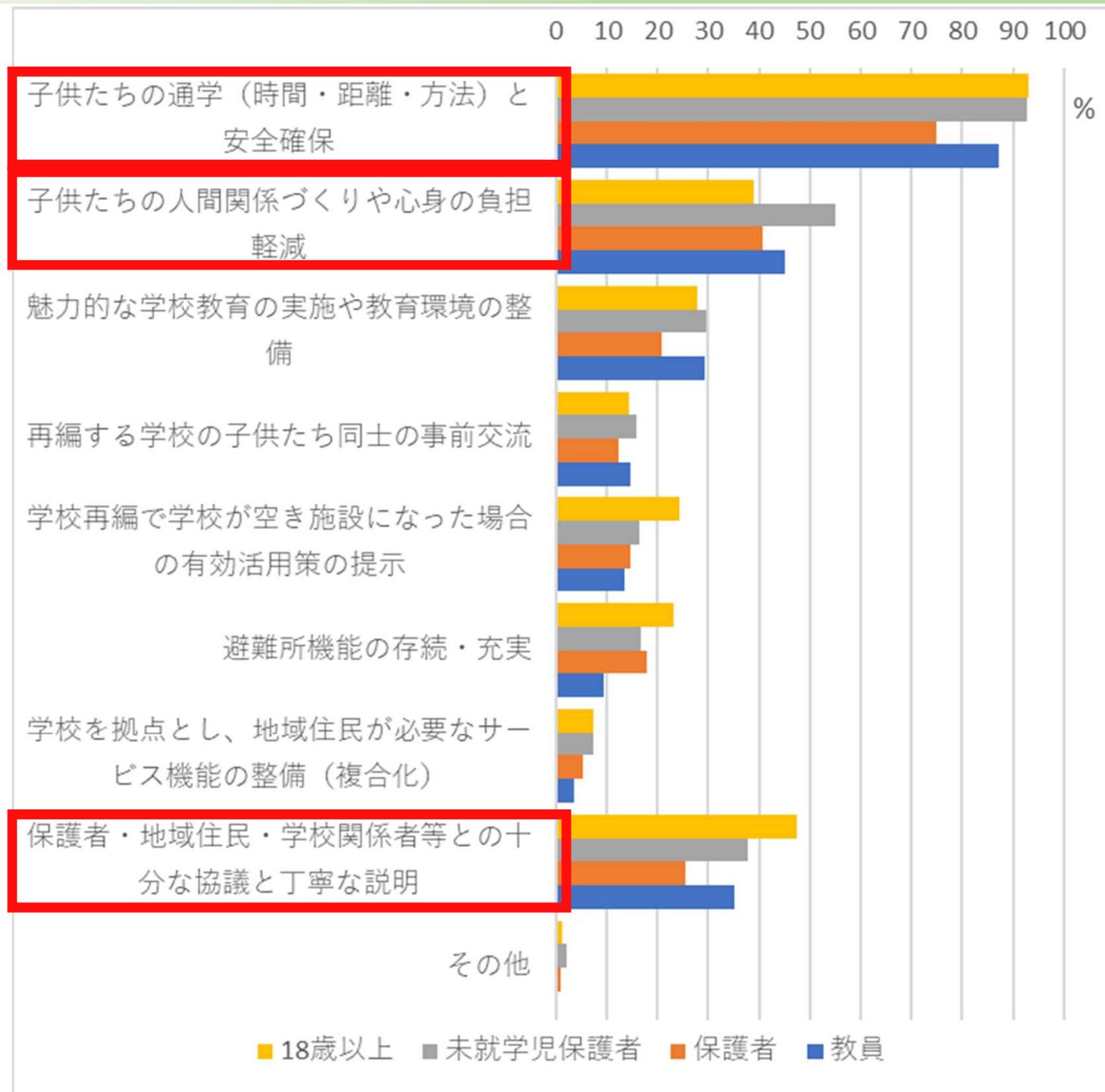
アンケート（速報）（5）学校の再編

1）学校再編の是非【単数回答】



アンケート（速報）（5）学校の再編

2) 学校再編の 配慮点 【複数回答】



上尾市学校施設更新計画基本計画（骨子案）

3. 計画のコンセプト・計画の方向性

3. 計画のコンセプト・計画の方向性

(計画のコンセプト)

「 持 続 可 能 な 教 育 環 境 づ く り 」

(計画の方向性)

方向性 1

- ・ 新しい時代の学びにふさわしい学校づくり
(教育環境の整備方針)

方向性 2

- ・ 子供たちの学びに望ましい学校規模の維持
(学校規模の適正化方針)

方向性 3

- ・ 計画的・効率的な学校施設の更新
(学校施設の更新方針)

3. 計画のコンセプト・計画の方向性

方向性1 「新しい時代の学びにふさわしい学校づくり」 (教育環境の整備方針)

- 国や市の学校教育の動向、市民アンケート結果等を踏まえ、学校施設の更新にあたり、市が目指す学校施設のあり方を示します。
- 「新しい時代の学びにふさわしい学校づくり」の取組を進め、魅力あふれる学校の実現を目指します。
- 魅力あふれる学校を整備し、子供たちに「より良い教育環境」を提供することで、上尾市のシティセールスや人口増加施策にも寄与することが期待できます。

学校施設のあり方

安全安心な学校

- 学校施設の更新により、安全・安心な教育環境を確保
- 避難所として学校施設を活用



老朽化した校舎の更新



学校敷地内の防災倉庫

新しい学びに対応した学校

- 新しい学びに対応した教育環境や教育設備を備えた学校へ改築
- 小中一貫教育を見据えた環境整備の検討



ICT端末を活用した授業風景

地域に開かれた学校

- 学校施設に社会教育機能等を付加
- 学校施設を地域団体・地域住民へ開放



図書館平方分館 (平方東小学校)



子どもの読書活動支援センター (富士見小学校)

快適な学校

- 空調設備の充実や脱炭素社会の実現のための取組を推進
- 学校を利用する全ての人に配慮したバリアフリー化を推進



体育館のエアコン



昇降口のバリアフリー化

3. 計画のコンセプト・計画の方向性

方向性2「子供たちの学びに望ましい学校規模の維持」（学校規模の適正化方針）

- 住民基本台帳を踏まえた児童生徒数・学級数の見込みにより、小学校においては、全ての学年で1学級（全体で6学級（特別支援学級を除く））の状態が5年以上継続することが見込まれる学校の統廃合を検討します。
- 中学校においては、教科担任の配置が困難となる8学級以下の状態が5年以上継続することが見込まれる中学校の統廃合を検討します。

(1) 学校規模の適正化の必要性

- 11学級以下の小規模な学校から25学級以上の大規模な学校まで、様々な学校が点在しており、直近10年間では、小中学校ともに25学級の大規模な学校が減少し、11学級以下の小規模校が増加しています。
- 学校では、子供たちが集団の中で多様な考え方に触れ、認め合い、協力し合う中で考える力や問題解決能力などを磨いたり、子供同士や教職員との人間関係を築く中で、コミュニケーション能力の向上を図り、社会性や規範意識などについて学んだりしています。
- そのためには、一定規模の集団の中で、子供たちが活気に満ちた学校生活を送ることができる学校規模（学級数・教職員数）が必要です。

(2) 学校規模の考え方

- 国が標準とする学校規模は、小・中学校とも「12学級以上18学級以下」となっていますが、本市における児童生徒数の見込みや学校施設の配置状況、市民等アンケート調査結果などを踏まえながら、「第3期上尾市教育振興基本計画」の基本理念「夢を育み 未来を創る 上尾の教育」を実現するため、子供たちの学びに望ましい学校規模を以下のとおり定めます。

○子供たちの学びに望ましい学校規模

（1校あたりの学級数）

学校種	子供たちの学びに望ましい学校規模
小学校	12学級以上24学級以下
中学校	9学級以上24学級以下

※1校あたりの学級数（特別支援学級を含まない）

3. 計画のコンセプト・計画の方向性

方向性2 「子供たちの学びに望ましい学校規模の維持」 (学校規模の適正化方針)

(3) 学校規模の適正化で見込まれる効果

1. 教育環境（人間関係、指導面）において

- 子供たちが多様な集団の中で社会性や豊かな人間関係を築くことができる。
- 様々なグループでの学習活動などが設定でき、個に応じたきめ細かな指導と集団の相互作用を生かした指導の両方が可能となる。

2. 教員配置において

- 学級担任以外の教員を多く配置することができる。また、中学校では全教科に専門の教員を配置することが可能となる。

3. 学校管理・運営において

- 教員同士が互いに助け合える体制が構築でき、校務分掌の運営など、教員の負担軽減となる。
- 教員の負担軽減により、教材研究など子供たちのために時間を費やすことが可能となる。

3. 計画のコンセプト・計画の方向性

方向性3 「計画的・効率的な学校施設の更新」 (学校施設の更新方針)

- 将来の児童生徒を踏まえた学校規模による更新、効率的な建替え計画や複合化等により、適正な財政規模による学校施設の更新を目指します。
- 各学校施設の耐用年数や老朽化状況などを踏まえ、実施計画等に基づき計画的に更新を行い、躯体の健全性が確認できた施設は耐用年数を延長するなど、改築の時期や財政負担の平準化を目指します。

(1) 耐用年数延長の方針

- 本市の学校施設の多くは、1981年5月以前に建築確認をされた、いわゆる旧耐震基準の建築物であり、慎重な判断が必要となることから、躯体の健全性が確認できた場合については、目標耐用年数を15年延長して利用を図ります。

○学校施設の目標耐用年数

建築物の構造区分	目標耐用年数	構造的耐用年数
鉄筋コンクリート造	60年(75年)	65年(80年)
鉄骨・鉄筋コンクリート造	60年(75年)	65年(80年)
鉄骨造	55年	60年
軽量鉄・木骨造	55年	50年

3. 計画のコンセプト・計画の方向性

方向性3 「計画的・効率的な学校施設の更新」 (学校施設の更新方針)

(2) 複合化の方針

- 学校施設は、地域コミュニティの拠点としての機能を有していることから、市民利用の高い社会教育施設等（図書館、公民館等）との複合化や将来の児童生徒数の減少による余裕教室等の活用を見据えた社会教育施設への転用を検討し、利便性の向上を目指します。これにより、更新費用の削減に寄与することが期待されます。

○学校施設と社会教育施設との複合化イメージ

図書館、公民館等の社会教育施設を複合化して、地域コミュニティ活動の拠点へ



(3) 経費削減の方針

- 仮設校舎を建設しない効率的な建替え計画や校舎の集約化のほか、更新時期の前倒しや先送りするなど、効率的な学校施設の更新を進めるため、学校単位による配置計画を策定します。
- 学校施設の共有化（プール施設、給食調理施設、特別教室等）が期待できる学校は、教育的効果の最大化を目指し、学校施設の共有化を進めます。
- 「上尾市立学校の水泳授業及びプール施設のあり方基本方針」に基づき、民間プールや公営プール、学校プール共同利用の方策を検討し、効率的な水泳授業の実施を進めます。
- 「上尾市学校給食基本方針」に基づき、地域の実情を踏まえた効率的で効果的な給食提供方法を検討します。
- 将来の児童生徒数を踏まえた学校施設の更新、学校再編による学校規模の適正化を推進し、効率的で効果的な学校施設の更新を目指します。

※本基本計画においては、上尾市総合計画や上尾市都市計画マスタープランなど、市が策定する長期計画が最長10年であることを踏まえ、10年ごとに見直しを行うものとします。

今後の見直しスケジュール

今後の見直しスケジュール

9月

- ・ 上尾市学校施設更新計画基本計画（骨子案）

10～11月

- ・ ワークショップや基調講演会による意見聴取

12月頃

- ・ 上尾市学校施設更新計画基本計画（素案）

市民アンケート、
ワークショップや
基調講演会
の意見を反映

12～1月

- ・ 公聴会、パブリックコメントによる意見聴取

3月頃

- ・ 上尾市学校施設更新計画基本計画（案）

公聴会や
パブリックコメント
の意見を反映

教育委員会で計画案を協議し、3月末に「上尾市学校施設更新計画基本計画」を改定

新しい時代の学びにふさわしい学校づくり ～ 子供たちのために ～



「新しい時代の学びにふさわしい学校づくり」の取組を進め、魅力あふれる学校の実現を目指します。